科目名	古文の基礎	科目ナンバリング	L-JSFU1-00.J	単位数 時　間	1単位	対象学年	1年	開講学期	前期
		科目コード	J50003		30時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	浅瀬石　久仁子	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 ・基本的な古典文法を復習し、中学校や高等学校の古文指導ができる程度の基礎力を身につける。 ・古典作品の現代の日本文化や青森県の郷土文学に与える影響について知り、広く考察する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	①古典文法に関する基礎的事項を身につける。 ②古典作品を正確に書写音読し、口語訳して内容を理解できる。 ③古典の日本文化や青森県の郷土文学への影響について、考察する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス・歴史的仮名遣いと文学史について	授業内容について説明を受け、古語辞典の使い方を復習し、歴史的仮名遣いと古典文学史について理解する。古語辞典を持参のこと。	
第2回	古典学習の基礎①品詞と活用	古語辞典を使いながら古典文法の基本を復習し、品詞と活用を習得する。理解度チェック。	
第3回	古典学習の基礎②助詞・助動詞	古語辞典を使いながら助詞、助動詞について復習し、訳出の仕方について習得する。理解度チェック。	
第4回	古典学習の基礎③敬語	古語辞典を使いながら敬語について復習する。理解度チェック。	
第5回	物語①『竹取物語』（１）	本文をWEBを検索してノートに書写、音読する。映画を視聴し感想を書く。	
第6回	物語①『竹取物語』（２）	本文をWEBを検索してノートに書写、音読する。映画を視聴し感想を書く。	
第7回	随筆『枕草子』	本文をWEBを検索してノートに書写、音読する。受講者は辞典を引きながら訳出する。	
第8回	物語②『源氏物語』（１）	本文をWEBを検索してノートに書写、音読する。ドラマを視聴して感想を書く。	
第9回	物語②『源氏物語』（２）	本文をWEBを検索してノートに書写、音読する。ドラマを視聴して感想を書く。	
第10回	軍記物『平家物語』	本文をWEBを検索してノートに書写、音読する。アニメを視聴し感想を書く。	
第11回	『古事記』と棟方志功	棟方志功の「大和し美し」を参考に「古事記」について、グループワークをしてまとめる。	
第12回	江戸文学と郷土文学	大河ドラマ「べらぼう」をもとに、当時の江戸文学と郷土文学について解説を聞いて考察し、ディスカッションする。	
第13回	物語③「南総里見八犬伝」	本文をWEBを検索してノートに書写、音読する。ドラマを視聴して感想を書く。	
第14回	まとめ	古典の確認テストを実施。辞書を用いながら古典文法に則って口語訳できるかを問い、ノート点検を行う。	
第15回	振り返り	前回の問題の返却をして、解答や音読してグループで相互評価しながら古典文法の振り返りを行う。	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	グループワーク	ディベート	クイズ、小テスト	理解度チェック	授業中のノート取り		

評価方法及び評価基準	・毎回の授業のコメントペーパー（３０点）・ノート（４０点）・確認テスト等（３０点）
課題等	授業のつど、指示する。
事前事後学修	前時まとめたノートや課題を復習し、授業で示された課題・問題について整理、予習し、解決に努めること。
教材教科書参考書	古語辞典（紙の辞書で高校生向けの辞書。高校時代に使用したものや古書も可）を必ず持参すること。高校時代に使用した古文の文法書や国語便覧があれば持参を推奨する。教材はWEB検索して使用する。
留意点	本授業用の古文専用の紙ノートを一冊準備すること。（Ｂ５かA4の３０枚程度でルーズリーフは不可）

科目名	漢文の基礎	科目ナンバリング	L-JSFU1-01.J	単位数時間	1単位	対象学年	1年	開講学期	後期
		科目コード	J50004		30時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	浅瀬石　久仁子	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 ・漢文の基礎事項を確認しながら、中学校や高等学校レベルの基本的漢文を習得する。 ・中世から現代まで、漢文学が日本や郷土の文化や文学に与えた影響について知り、広く考察する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	①漢詩文に関わる文法事項を身につける。 ②漢詩文を正確に書写音読、口語訳して内容を理解できる。 ③漢詩文の日本文学や文化、特に郷土文学や文化への影響について知識と理解を深める。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス・漢字について	漢和辞典の使い方を学び、中国文学史と漢字の基礎的事項について習得する。漢和辞典を持参のこと。PBL。	
第2回	漢文の基礎①（訓読と書き下し文）	漢文の学習方法を知り、白文、書き下し文のルールについて解説を聞き、実際に書写や音読を体験する。PBD。	
第3回	漢文の基礎②（重要句型の確認１）	白文、訓読文、書き下し文について復習し、漢文の重要句型を学ぶ。理解度チェック。	
第4回	漢文の基礎③（重要句型の確認２）	白文、訓読文、書き下し文について復習し、漢文の重要句型を学ぶ。理解度チェック。	
第5回	故事・寓話	WEB本文をノートに白文で書写し、書き下し、漢和辞典を使って口語訳し、グループで音読する。	
第6回	文章「雑説」	WEBで「雑説」を白文で検索しノートに書写し、書き下し、漢和辞典を使って口語訳し、音読する。	
第7回	漢文と郷土作家①　太宰治と中国の小説	太宰治の短編小説「清貧譚」を聞き、その原作「聊斎志異」の「黄英」の一部を音読し、グループでディスカッションする。	
第8回	漢詩①　漢詩の基礎	漢詩と唐詩、代表的詩人について、歴史と基本的知識を習得する。漢文の基礎知識の復習をする。PBL.。	
第9回	漢詩②　唐代の詩人	WEB検索した漢詩をノートに白文で書写し、書き下し文、漢和辞典を使い口語訳、グループで音読し、唐の詩人について知る。	
第10回	漢文と郷土作家②　寺山修司と漢詩	于武陵の「勧酒」と寺山修司の詩「幸福が遠すぎたら」を音読、比較してグループディスカッションする。	
第11回	史話①「史記」	WEB検索して「史記」の「四面皆楚歌」をノートに書写、口語訳し、ねぶたやサブカルチャーへの影響等について考察する。	
第12回	史話②「三國志」	WEB検索して「三國志」の「赤壁の戦い」をノートに書写、口語訳し、ねぷたやサブカルチャーへの影響等について考察する。	
第13回	諸子百家「論語」と「老子」	WEBを使って「論語」と「老子」を書写音読、口語訳し、中国思想の諸子百家や儒教と道教について基本的知識を習得する。	
第14回	まとめ・陸羯南の漢詩	陸羯南の漢詩をノートに書写し、漢文の基礎的知識が身についているか小テストと音読の相互評価によって確認する。	
第15回	振り返り	前回の内容を復習し、漢文の基礎的知識が身についているか小テストと音読の相互評価によって振り返る。	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	グループワーク	ディベート	クイズ、小テスト	理解度チェック	授業中のノート取り		

評価方法及び評価基準	・毎回の授業のコメントペーパー（30点）・ノート（４0点）・確認テスト等（３0点）
課題等	講義でその都度、指示する。基本的に次回の範囲をノートに白文で書写してくること。
事前事後学修	毎回、各自の実力に応じて予習と復習をすること。特に音読がすらすらできるように練習すること。
教材教科書参考書	漢和辞典（高校生向けの紙の辞書）。なお高校時代に使用した漢文の文法書や国語便覧があれば、持参されたい。本文はWEB検索して使用する。
留意点	本授業用の漢文専用ノートを一冊準備すること。（B5かA4・30枚程度。ルーズリーフは不可）

科目名	日本語学概論Ａ	科目ナンバリング	L-JSLA1-00.JN	単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
		科目コード	J51000		30時間				

区分			担当者名		授業形態		
	専門教育科目	必修		今村　かほる		講義	単独
	日本語教員	必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 日本語学学習の基礎として概観し、必要な知識を身につける。また、他の専門科目の基礎科目でもある。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	日本語研究の基礎を理解し、正確な基礎知識を習得する。特に、世界の中の日本語　音声・音韻　文字表記　語彙・意味について理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	講義の進め方・評価についてのガイダンス	日本語を言語として学問的にとらえるための手順・進め方	
第2回	世界の中の日本語１　言語の特徴	母語としての日本語を世界の言語の中で位置づける	
第3回	世界の中の日本語２　日本語と国語	母語としての日本語と国語の共通点と相違点	
第4回	世界の中の日本語３　日本語を取り巻く事情	言語や文化とそれを取り巻く環境・社会的背景・歴史	
第5回	日本語の音声・音韻１　音声器官と発音	音声器官と日本語の音節に関する発音に関する基本的知識	
第6回	日本語の音声・音韻２　単音と音節・拍	音声・音韻の単位としての単音・音節・拍の概念の理解	
第7回	日本語の音声・音韻３　音韻史	日本語の歴史における音韻変化の歴史	
第8回	日本語の音声・音韻４　アクセントとイントネーション	アクセントとイントネーションの基本知識	
第9回	日本語の音声・音韻５　日本語の音声に関する実技と試験	授業内容のまとめと実技試験	
第10回	日本語の文字・表記１　世界の文字	世界の文字の中で日本語の表記と文字を位置づける	
第11回	日本語の文字・表記２　漢字・仮名	仮名と漢字の成立の歴史	
第12回	日本語の文字・表記３　ローマ字・正書法	ローマ字導入の歴史と現代語の表記法	
第13回	日本語の文字・表記４　新しいメディアとコミュニケーション	Ｗｅｂ、ＳＮＳ等のＩＣＴと表記の問題	
第14回	日本語研究の諸相１	危機言語	
第15回	日本語研究の諸相２	外国語としての日本語	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	グループワーク	資料記入	まとめアクティビティ	授業中のノート取り				

評価方法及び評価基準	世界の中の日本語・音声音韻・文字表記・語彙意味のまとまりごとに小テストまたはレポートを科す。最後に全体を範囲とした試験を実施する。その他、講義中の課題に対する発表について加点する。
課題等	授業内容に基づき、調べ学習や内省による用例調査など「問題解決型」の課題を科す。
事前事後学修	参考文献・参考ＵＲＬを講義時に指示するので、参考にする。 事前事後学習（課題・調べ学習）を週3時間程度必要とする
教材教科書参考書	沖森拓也他著『図解日本語』三省堂　ISBN978-4-385-36242-7　と　プリントを配布。
留意点	試験は論述式とし、具体例を伴う説明を重視する。問題解決型の課題もあるため、図書館・ＷＥＢでの調べ学習を中心としたアクティブラーニングを取り入れている。 進行状況に合わせて、オンデマンド授業を行う。実施日は追って指示する

科目名	日本語学概論Ｂ	科目ナンバリング	L-JSLA1-01.JN	単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
		科目コード	J51001		30時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	今村　かほる	授業形態	講義	単独
	日本語教員	必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 日本語学学習の基礎として概観し、必要な知識を身につける。また、他の専門科目の基礎科目でもある。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	日本語研究の基礎を理解し、正確な基礎知識を習得する。特に、文法、待遇表現、方言、日本語教育などについて理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	日本語の語彙・意味１	語と語彙体系	
第2回	日本語の語彙・意味２	語種	
第3回	日本語の語彙・意味３	意味とは何か	
第4回	日本語の語彙・意味４	意味の構造	
第5回	日本語の文法１	文法と文法学説	
第6回	日本語の文法２	学校文法とは	
第7回	日本語の文法３	形態論と統語論	
第8回	日本語の文法４	態、相、時制	
第9回	日本語の文法５	敬語、待遇表現	
第10回	日本語史1	日本語の歴史―古代編	
第11回	日本語史2	日本語の歴史―近代編	
第12回	日本語の方言１　社会方言	社会における方言　属性差とことば	
第13回	日本語の方言２　地域方言	方言と方言区画・地域によることばの違い、方言と標準語・共通語の歴史　国語教育との関連	
第14回	日本語研究の諸相３	語用論、認知言語学、対照言語学	
第15回	まとめ	講義の総括	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	グループワーク	発表、ポスター作成	資料記入	まとめアクティビティ	授業中のノート取り			

評価方法及び評価基準	日本語の文法・敬語・方言・日本語研究の諸相のまとまりごとに小テストまたはレポートを科す。
課題等	授業内容に基づき、調べ学習や内省による用例調査など「問題解決型」の課題を科す。
事前事後学修	参考文献・参考ＵＲＬを講義時に指示するので、参考にする。 事前事後学習（課題・調べ学習）を週3時間程度必要とする。
教材教科書参考書	沖森拓也他著『図解日本語』三省堂　ISBN978-4-385-36242-7と　プリントを配布。
留意点	試験は論述式とし、具体例を伴う説明を重視する。問題解決型の課題もあるため、図書館・ＷＥＢでの調べ学習を中心としたアクティブラーニングを取り入れている。進行状況に合わせて、オンデマンド授業を行う。実施日は追って指示する

科目名	日本語音声学	科目ナンバリング	L-JSLA1-02.UJN	単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
		科目コード	B52006		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	今村　かほる	授業形態	講義	単独
	教員免許・日本語教員	必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 日本語学の基礎科目として、日本語の音声学的特徴の理解と実践する 日本語の音声的特徴を、国際音声学協会の国際音声字母を用いて理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	日本語の母音を基本母音との比較において理解し、実践できる。 日本語の子音を、国際音声字母との関連において理解し、実践できる。 国語教員・日本語教師の資格科目でもあり、理論と実践の両面を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	講義の進め方・実技試験についてのガイダンス	理論だけでなく、講義中に実技も行うため、機器の操作の慣れる	
第2回	音声と音声学	日本語の音声と音声学の学問の基礎を理解する	
第3回	単音と音節	音声の単位について学ぶ	
第4回	子音と母音、国際音声字母	音声学の基礎用語の理解と音声記号の理解	
第5回	基本母音	基本母音とは何かを学ぶ	
第6回	基本母音（実技）	第一次基本母音の発音と聞き分けの実技	
第7回	日本語の母音と基本母音（実技）	基本母音を使って日本語の母音を説明するとともに、その聞き分けをする。実技試験。	
第8回	日本語の子音	国際音声記号と日本語の子音カ行・ガ行	
第9回	日本語の子音	国際音声記号と日本語の子音サ行・ザ行・タ行・ダ行	
第10回	日本語の子音	国際音声記号と日本語の子音ナ行・ハ行・バ行・ナ行	
第11回	日本語の子音	国際音声記号と日本語の子音ラ行・ワ行・ヤ行	
第12回	音節と拍	拍（モーラ）と音節（シラブル）　特殊拍	
第13回	アクセント	アクセントとイントネーションの基本知識と実践	
第14回	日本語のアクセントとイントネーション、ポーズ、プロミネンス	日本語の音調	
第15回	日本語の子音・アクセント（実技）	外国語としての日本語　学習者の発音の聞き分け。実技試験。	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	実習、フィールドワーク	ロールプレイング	発表、ポスター作成					

評価方法及び評価基準	試験（筆記と実技）80%・講義時のコメント20% 基本的事項が身についているかどうかを問う筆記試験のほか、音声技術に関する実技試験を実施する。
課題等	適宜指示する。アクティブラーニングを導入している。
事前事後学修	ｗｅｂ教材を利用し、実技試験の自習練習をする。 事前事後学習（課題・調べ学習）を週3時間程度必要とする。
教材教科書参考書	齋藤純男『日本語音声学入門』三省堂　ISBN4-385-34588-0
留意点	ＬＬ教室を使用する都合により、履修者を上限５０名とする。

科目名	日本語文法論Ａ	科目ナンバリング	L-JSLA2-03.UJN	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目コード	J51002		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	藁科　勝之	授業形態	講義	単独
	教員免許	選択必修					

授業の概要等

〔授業の主旨〕
テーマ：現代日本語の文法
　文法研究の基本を中心に、用語と概念、文法的考え方について、具体例に即して考える。
　あわせて、過去の文法研究についてもできるだけ触れ、その歴史的経緯も紹介することによって文法研究の関心を喚起する。
〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕
ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。

到達目標

（１）文の基本的構造を説明できる。
（２）文法的カテゴリーとその内容を説明できる。
（３）具体的な文について、その構造を文法的に説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	はじめに	講義の進め方、評価の仕方	講義資料配付（含次回分）以下同様。
第2回	文の基本構造	文とは何か 文の構造と表現の形	講義・解説
第3回	主語	ハとガの違い ガの用法	講義・解説
第4回	補語	補語、修飾語	講義・解説
第5回	述語の構造	文の成分 文法的カテゴリー	講義・解説
第6回	ヴォイス	受け身、使役、自発	講義・解説
第7回	アスペクト（１）	アスペクト形式概観	講義・解説
第8回	アスペクト（２）	アスペクト各論	講義・解説
第9回	テンス	タの問題	反転学習
第10回	モダリティ（１）	モダリティ概観	講義・解説
第11回	モダリティ（２）	モダリティ各論	講義・解説
第12回	助詞（１）	助詞の種類	講義・解説
第13回	助詞（２）	とりたて助詞	反転学習
第14回	体言―代名詞	コソアドとは。授業テーマに関る各自の課題設定	講義・解説
第15回	まとめ	授業の総括	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	資料記入	クイズ、小テスト	理解度チェック	授業中のノート取り			

評価方法及び評価基準

２/３以上の出席を前提として、
（１）中間レポート課題：授業の理解度を測る。課題に対して適切に調査・考察し、記述しているか（３０％）。
（２）定期試験：授業内容の理解度を問う（７０％）。
　なお、中間レポートの評価には、ルーブリック評価を用いる。

課題等

レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。

事前事後学修

毎回の授業時に、次回分の講義資料も含めて配布するので、当該授業時の事後学習とともに、次回分の事前学習を進めること。1週間に3時間程度の学修を要する。

教材教科書参考書

特定の教科書は用いない。
講義資料を印刷配布する。
また参考書・参考文献等は、授業時に随時紹介する。

留意点

授業時に紹介した参考書等をできるだけ読むこと。
15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行うことがあります。詳細は授業内に説明します。

科目名	日本語文法論Ｂ	科目ナンバリング	L-JSLA2-04.UJN	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目コード	J51003		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	藁科　勝之	授業形態	講義	単独
	教員免許	選択必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 テーマ：近世の古文、擬古文の文法・語法・表現 　江戸時代の言語、表現、文化を勉強することは、日本の言語・文化の精髄を知ることにつながる。 　今期は、近世語の文法、語法や表現法を、さまざまなジャンルの言語作品を基に、具体的に把握する。 　それらを現代日本共通語と比較して、どこが、どのように、どのくらい違っているかを考えてみる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	近世の言語資料にはどのようなものがあるか、その概要を説明できる。 上方語と江戸語の違いが理解できる。 表現の方法について、近世語の用法と現代語との違いが分かる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	はじめに―日本語の歴史と近世	江戸時代の言語は日本語史の中でどのような位置かを学ぶ。	講義資料配付（含次回分）以下同様。
第2回	近世の言語資料	江戸時代の言語資料にはどのようなものがあるか、 その全体像、ジャンルなどを紹介する、	講義・解説
第3回	中世から近世へ	・噺本について ・『きのふはけふの物語』の読解および語法と表現	講義・解説
第4回	浄瑠璃	近松作品から―「曽根崎心中」の語法と表現	講義・解説
第5回	浮世草子	西鶴作品から―『西鶴諸国ばなし』	講義・解説
第6回	浮世草子	続き―『万の文反古』と候文	講義・解説
第7回	読本前期	中国近世小説の移入と其の影響	中間レポート・課題提示
第8回	仮名草子	『伽婢子』を読む	講義・解説
第9回	読本（１）	秋成作品から―『雨月物語』の文章表現	講義・解説
第10回	読本（２）	続き	反転学習
第11回	滑稽本	式亭三馬『浮世風呂』のことば	講義・解説
第12回	歌舞伎脚本（１）	鶴屋南北作品から―『東海道四谷怪談』のことば	講義・解説
第13回	歌舞伎脚本（２）	続き	反転学習
第14回	続き	続き	講義・解説
第15回	まとめ	近世語の文法・語法の整理	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	資料記入	クイズ、小テスト	理解度チェック	授業中のノート取り			

評価方法及び評価基準	３分の２以上の出席を前提として： 中間レポート４０％､および最終試験６０％を総合して評価する。 中間レポートは、与えられた作品の文章をきちんと読解できているかで評価される。 　なお、中間レポートの評価には、ルーブリック評価を用いる。
課題等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。
事前事後学修	毎回の授業時に、次回分の講義資料も含めて配布するので、当該授業時の事後学習とともに、次回分の事前学習を進めること。1週間に3時間程度の学修を要する。
教材教科書参考書	資料は配布する。 参考書、参考文献等は、授業時に随時紹介する。
留意点	授業で扱う作品は、現代語訳でもよいので、事前にその内容を把握しておくこと。 15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行なうことがあります。詳細は授業内に説明します。

科目名	日本語史Ａ	科目ナンバリング	L-JSLA2-05.UJN	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目コード	J51004		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	市地　英	授業形態	講義	単独
	教員免許	選択必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 テーマ：日本語の歴史（古代語） 言語は変化する。日本語もその例に漏れない。この授業では、奈良時代、平安時代、鎌倉時代の言語の様相を概観し、日本語の変遷について理解を深める。古典として知られる作品のことばが、それぞれの時代の言語的特徴を備えていることに気付けるようになることを目標とする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	（１）古代語の特徴を知識として身につけ、現代語との相違点を理解できるようになる。 （２）奈良時代、平安時代、鎌倉時代の作品を読み、その言語の特徴に気付くことができるようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	時代区分・漢字の伝来	日本語史における時代区分の考え方と、漢字の伝来について講義する。	講義資料配布 以下同様
第2回	奈良時代（１）文字表記	万葉仮名と上代特殊仮名遣いについて講義する。万葉仮名の和歌を読む。	講義・解説・資料読解
第3回	奈良時代（２）音韻	奈良時代の音韻と語音構造について講義する。万葉集や記紀歌謡から語音構造が窺える箇所を発見する。	講義・解説・資料読解
第4回	奈良時代（３）語彙	奈良時代の語種、語の特徴、露出形と被覆形について講義する。日常のことばから、露出形と被覆形を発見する。	講義・解説・資料読解
第5回	奈良時代（４）文法	奈良時代の資料にみられる助詞、語法などの基本的な文法事項を確認する。	講義・解説・資料読解
第6回	平安時代（１）文字表記	平安時代の文字表記、主として平仮名と片仮名の成立と変遷について講義する。仮名で書かれた文献を読んでみる。	講義・解説・資料読解
第7回	平安時代（２）音韻	上代特殊仮名遣いの衰退、手習い歌から窺える音韻の変遷、音節構造の変化について講義する。	講義・解説・資料読解
第8回	平安時代（３）アクセント	平安時代のアクセントについて、類聚名義抄の声点の見方とともに講義する。類聚名義抄の項目を読んでみる。	講義・解説・資料読解
第9回	平安時代（４）語彙	平安時代の語種、漢文訓読語と和文語の違いについて講義する。	講義・解説・資料読解
第10回	平安時代（５）訓点資料	平安時代の重要な言語資料である訓点資料について講義する。	講義・解説・資料読解
第11回	平安時代（６）文法	平安時代の文法事項について確認する。この時代の文法が、文語文法の基本となることを講義する。	講義・解説・資料読解
第12回	鎌倉時代（１）文字表記・語彙	鎌倉時代に片仮名で書かれた散文が登場すること、また、漢語の増加と和漢混淆文体の作品について講義する。鎌倉時代に片仮名で書かれた文書を読んでみる。	講義・解説・資料読解
第13回	鎌倉時代（２）仮名遣いと音韻	鎌倉時代までの音の変化を整理し、仮名遣いの乱れの発生と、藤原定家の『下官集』から表記の規則を作ろうとする試みが発生し始めたことを講義する。	講義・解説・資料読解
第14回	鎌倉時代（３）文法	古代語の文法を再確認しつつ、鎌倉時代の資料から係り結びの衰退がみえはじめるなどの近代語の萌芽を読み取る。	講義・解説・資料読解
第15回	古代語のまとめ	奈良時代、平安時代、鎌倉時代における言語の変遷を振り返る。	期末試験

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	資料記入	授業中のノート取り	理解度チェック					

評価方法及び評価基準	（１）第１回～第１４回におけるミニレポート（授業のまとめ直し、復習クイズ）の提出　２０％ （２）授業内での資料読み上げへの参加　２０％ （３）期末試験（古代語について説明できるか）　６０％
課題等	ミニレポートは毎回チェックし、授業のまとめ直し及び復習クイズが正しいかを確認する。
事前事後学修	資料を掲載したプリントを事前配布するので、毎回の授業前後に、教科書と共に参照して事前学習すること。以上により、１週間に３時間程度の学修時間が必要である。
教材教科書参考書	【教科書】沖森卓也編著『日本語史概説』日本語ライブラリー、朝倉書店、2010年、ISBN9784254515220
留意点	授業毎のミニレポートで、質問を受け付けます。また、個別ではメールで受け付けます。土日・祝日などの休日は、よほど緊急でない限り、基本的に返事をしません。皆さんも休むときは休みましょう。

科目名	日本語史Ｂ	科目ナンバリング	L-JSLA2-06.UJN	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目コード	J51005		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	市地　英	授業形態	講義	単独
	教員免許	選択必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 テーマ：日本語の歴史（近代語） 日本語の歴史的な変遷について、この授業では、室町時代、江戸時代、明治時代以降の言語の様相を概観し理解を深める。現代語に至るまでに、古代語から如何なる変化が生じたのか、また、どのような資料から各時代の日本語の様相が明らかにできるのか、理解を深めることを目的とする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	（１）近代語の特徴を知識として身につけ、古代語からどのような変化があり、現代語に至るまでにいかなる変化があったのか知識を身につける。 （２）文語と口語の違いを意識し、室町時代、江戸時代、明治時代以降の日本語を知るための資料にあたることができるようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	時代区分・古代語の概観	日本語史における時代区分の考え方を学び、古典のことばとして古代語を概観する。	講義資料配布 以下同様
第2回	室町時代（１）近代語	室町時代の日本語資料の種類を知識として身につける。そのうえで、狂言資料を読み、近代語の文法的な特徴を観察して、古代語との違いを講義する。	講義・解説・資料読解
第3回	室町時代（２）キリシタン資料	キリシタン資料の種類、ローマ字表記の綴りについて講義する。綴りから室町時代の音韻がいかなるものだったのかを確認する。	講義・解説・資料読解
第4回	室町時代（３）抄物	抄物の種類、資料的な性質を講義する。ゾ体とナリ体の抄物を参照し、断定の助動詞にジャとダがみられることを観察する。	講義・解説・資料読解
第5回	室町時代（４）辞書	『倭玉篇』『下学集』『節用集』など、室町時代に字書が制作されたことを講義し、分類・配列がそれぞれどのようなものか影印から観察する。	講義・解説・資料読解
第6回	江戸時代（１）京阪語と江戸語①	江戸時代における日本語資料について学び、中央語が京阪から江戸に移ることを講義する。資料を読むことで、近世前期の京阪語と東国語の差異を理解する。	講義・解説・資料読解
第7回	江戸時代（２）京阪語と江戸語②	資料を読むことで、近世後期の江戸語の様相を知り、近世前期の京阪語との差異を理解する。	講義・解説・資料読解
第8回	江戸時代（３）出版の隆盛	江戸時代において、木版印刷による出版物が隆盛し、言語資料となる俗文学作品が流通することを講義する。江戸時代の木版印刷本を実際に見ることで、本の形態について学ぶ。	講義・解説・資料読解
第9回	江戸時代（４）文字・表記	平仮名の字体の減少傾向とその背景、外来語にカタカナを使用する例など、江戸時代にみられるようになる文字表記の様相を講義する。	講義・解説・資料読解
第10回	江戸時代（５）語彙・文法	蘭学資料における外来語の訳語について講義する。また、京阪語と江戸語において、現代語に近い文法形式になったことを講義する。	講義・解説・資料読解
第11回	江戸時代（６）日本語研究の目線	国学者によって日本語研究が進んだことについて講義する。仮名遣いと古典文法について、当時の資料を参照し、学ぶ。	講義・解説・資料読解
第12回	明治時代以降（１）語彙	明治時代以降の日本語資料について講義したうえで、明治維新後の外来語や新漢語の増加について講義する。	講義・解説・資料読解
第13回	明治時代以降（２）国語施策	国語施策のうち、仮名遣い及び漢字施策の変遷について講義する。	講義・解説・資料読解
第14回	明治時代以降（３）標準語	国語施策のうち、標準語と方言の議論と、学校教育への影響について講義する。	講義・解説・資料読解
第15回	近代語のまとめ	室町時代以降の日本語の変遷についてまとめ、古代語からどのような変化があったのかを理解する。	期末試験

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	資料記入	授業中のノート取り	理解度チェック					

評価方法及び評価基準	（１）第１回～第１４回におけるミニレポート（授業のまとめ直し、復習クイズ）の提出　２０％ （２）授業内での資料読み上げへの参加　２０％ （３）期末試験（近代語について説明できるか）　６０％
課題等	ミニレポートは毎回チェックし、授業のまとめ直し及び復習クイズが正しいかを確認する。
事前事後学修	資料を掲載したプリントを事前配布するので、毎回の授業前後に、教科書と共に参照して事前学習すること。以上により、１週間に３時間程度の学修時間が必要である。
教材教科書参考書	【教科書】沖森卓也編著『日本語史概説』日本語ライブラリー、朝倉書店、2010年、ISBN9784254515220
留意点	授業毎のミニレポートで、質問を受け付けます。また、個別ではメールで受け付けます。土日・祝日などの休日は、よほど緊急でない限り、基本的に返事をしません。皆さんも休むときは休みましょう。

科目名	現代日本語学入門	科目ナンバリング	L-JSLA2-07.J	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目コード	J51010		30時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	今村　かほる	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 現代語研究の基礎科目 日本語学（現代語・口語）の基本的な考え方について、学生の身近なテーマに基づいて学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	日本語学の基本的な考え方と基本文献を理解する。図書館の使い方を理解する。 レジュメの作り方、発表の仕方などプレゼンテーションの能力を高める。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	前期講義・演習の進め方・評価についてのガイダンス	講義の進め方・グループワークとその準備および評価について理解する	
第2回	学術研究	学術研究の基本的な流れを知る	
第3回	入門日本語学とは	日本語学という学問の基礎を知る	
第4回	大学生と図書館	知の入り口としての図書館、日本語学研究のための基本文献ガイダンス	
第5回	現代語研究	現代語研究の分野と方法　文献、フィールドワーク	
第6回	テーマ別調査	現代語課題別グループワーク　調べる	
第7回	テーマ別調査	現代語課題別グループワーク　まとめる	
第8回	発表の準備	発表の手順の確認	
第9回	プレゼンテーション（1）	グループ発表	
第10回	プレゼンテーション（2）	グループ発表	
第11回	プレゼンテーション（3）	グループ発表	
第12回	プレゼンテーション（4）	グループ発表	
第13回	プレゼンテーション（5）	グループ発表	
第14回	プレゼンテーション（6）	グループ発表	
第15回	総括・振り返り	現代語研究の意義	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	実習、フィールドワーク	発表、ポスター作成	グループワーク					

評価方法及び評価基準	講義時のコメント10%・発表50%・質疑20%・提出物20% 評価は発表の手順・形式を守ること、論理性を重視する。その他、質疑・応答等の発言も重視する。
課題等	適宜指示する。どの課題にするかは、希望調査を経て、希望者が多ければ抽選になる場合もある。
事前事後学修	事前事後学習（課題・調べ学習）を週3時間程度必要とする。
教材教科書参考書	プリント使用。ビッグデータを活用するためのＵＲＬ等を指示する。
留意点	発表および資料はＩＣＴ活用をする。パワーポイントを用いて作成することを原則とする。グループワーク、アクティブラーニングを導入している。

科目名	古典日本語学入門	科目ナンバリング	L-JSLA2-08.J	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目コード	J51011		30時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	藁科　勝之	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 古典語を理解するための、語学的知識や解析方法を身に付ける。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	次の事項を目標とする。 （１）文字（仮名、漢字）の使い方を説明できる。 （２）古典語の単語の内部構造を分析できる。 （３）古典の文献、資料の語法、表現法について説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	はじめに	古典語とは何か	講義資料配付（含次回分）以下同様。
第2回	言語における音と表記	言語の視覚化、その方法	講義・解説
第3回	表音文字	カタカナ・ひらがなの創始	講義・解説
第4回	表語文字	漢字とは何か。漢字の受容と摂取	講義・解説
第5回	かなの機能	歴史的かなづかいとは何か	講義・解説
第6回	語彙	単語の問題、古語辞典とは何か	講義・解説
第7回	語構成	単語の分析、接辞、語基	中間レポート・課題提示
第8回	語形成	造語、合成、派生	反転学習
第9回	古典語の文法	表現とは何か	講義・解説
第10回	古典語の格	助詞のいろいろ	反転学習
第11回	述語（１）	用言と活用と機能（１）	講義・解説
第12回	述語（２）	用言と活用と機能（２）	反転学習
第13回	種々の表現	疑問、強調、係りと結び	講義・解説
第14回	古典の敬語（１）	待遇表現とは何か	反転学習
第15回	古典の敬語（２）	敬語および待遇表現の仕組み。まとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	資料記入	クイズ、小テスト	理解度チェック	授業中のノート取り			

評価方法及び評価基準	３分の２以上の出席を前提として、 （１）レポート評価３０％ （２）期末試験７０％（古典語の特徴―文字・表記、語彙、文法―に関する基礎的知識・理解度を問う） なお、レポート評価には、ルーブリック評価を用いる。
課題等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。
事前事後学修	毎回の授業時に、次回分の講義資料も含めて配布するので、当該授業時の事後学習とともに、次回分の事前学習を進めること。1週間に3時間程度の学修を要する。
教材教科書参考書	特定の教科書は用いない。必要な資料は、適宜印刷配布する。 古語辞典を持参するように（電子辞書でも可）。 また参考書等は、授業時に随時紹介する。
留意点	授業時に紹介する複数の参考書を読んで、日本語の歴史に関する知識を得るようにすること。 15回の授業のうち、1回をオンデマンドによる授業を行うことがあります。詳細は授業内に説明します。

科目名	日本語学演習ＩＡ	科目ナンバリング	L-JSLA3-09.S	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
		科目コード	J52000		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	今村　かほる	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 言語政策・国語教育史としての方言と共通語教育について学ぶ。専門演習として、日本語学の先行研究のレビューの仕方や文献の入手など、学問の基礎を身につけつとともに、グループワークやプレゼンテーションなどのアクティブラーニングをする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	専門科目の演習として、問題解決に至るまでの過程を着実に積み上げる。プレゼンテーションのスキルを身に着け、必要な機器を用いて発表できるようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	演習の進め方に関するガイダンス	演習の進め方・講義との違い・グループワークとその準備および評価について理解する	
第2回	文献調査という手法を知る	文献調査の基礎　基本文献の扱い方とデータ収集	
第3回	フィールドワークという手法を知る	フィールドワークの基礎　調査計画とデータ収集	
第4回	資料収集・整理	先行研究文献の入手とまとめ	
第5回	仮説と調査方法	先行研究と仮説の位置づけを知り、それに基づく適切な調査方法を選択する	
第6回	調査準備	学習指導要領と教科書検定制度について学ぶ	
第7回	調査１	国語教育：学習指導要領・国語教科書調査	
第8回	調査２	国語教育：学習指導要領・国語教科書調査	
第9回	調査３	国語教育：学習指導要領・国語教科書調査	
第10回	発表１	学習指導要領班	
第11回	発表２	学習指導要領班	
第12回	発表３	中学校教科書班	
第13回	発表４	中学校教科書班	
第14回	発表５	中学校教科書班	
第15回	発表６	中学校教科書班	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	グループワーク	実習、フィールドワーク	発表、ポスター作成					

評価方法及び評価基準	演習時のコメント10%・課題提出20%・発表50%・質疑15%・グループワーク5% 学術研究の基本的知識と手順を身につけているかを、発表だけでなくグループワークワーク時にも評価する
課題等	ＰＰＴを用いて発表資料を作成し、発表する。
事前事後学修	授業時に指示する。参照すべきＷｅｂページ、文献資料を用いて、事前事後の調べ学習をする。 事前事後学習（課題・調べ学習）を週3時間程度必要とする
教材教科書参考書	プリントを配布する
留意点	パソコンの操作とプレゼンテーションツールの扱いが必要。グループワークをする。弘前大学図書館との共通利用証を準備すること。アクティブラーニングを導入している

科目名	日本語学演習ＩＢ	科目ナンバリング	L-JSLA3-10.S	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	後期
		科目コード	J52001		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	今村　かほる	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 応用方言学　方言学の実践的研究と社会貢献としての応用　学問を現実社会に応用して、地域方言の保存と継承、地域社会の活性化に役立てる 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	学問研究の成果を社会に応用し、危機言語である地域の方言に対し、その保存と継承という課題解決のための活動をする。その成果を報告するとともに、調査によって確かめる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	演習の進め方に関するガイダンス	演習の進め方・講義との違い・グループワークとその準備および評価について理解する	
第2回	応用方言学	方言学の実践的研究と社会貢献としての応用方法	
第3回	方言ネットワークの構築１	社会教育・生涯学習としての方言　ネットワーク会議の企画	
第4回	方言ネットワークの構築２	社会教育・生涯学習としての方言　ネットワーク会議の開催準備	
第5回	方言ネットワークの構築３	社会教育・生涯学習としての方言　ネットワーク会議の開催準備	
第6回	方言イベント１	方言イベントの企画（南部弁の日）社会貢献・地域活性化としての方言	
第7回	方言イベント２	方言イベントの企画（南部弁の日）開催準備　社会貢献・地域活性化としての方言	
第8回	方言イベント３	方言イベントの企画（南部弁の日）開催準備　社会貢献・地域活性化としての方言	
第9回	言語データの分析と考察	言語データの文字化の方法を知る	
第10回	言語データの分析と考察	言語データ基づく論理的考察方法	
第11回	発表１	方言ネットワーク班　方言ネットワーク会議の開催	
第12回	発表２	方言ネットワーク班	
第13回	発表３	方言イベント班　南部弁の日の開催（12月6日予定）	
第14回	発表４	方言イベント班	
第15回	総括	報告書作成	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	実習、フィールドワーク	発表、ポスター作成	グループワーク				

評価方法及び評価基準	演習時のコメント15%・グループワーク20%・発表50%・質疑15% 学術研究の基本的知識と手順を身につけているかを、発表だけでなく、評価する
課題等	ネットワーク会議・方言イベントのまとめと報告をレポートにする。
事前事後学修	プレゼンテーションツールを使って発表する。 事前事後学習（課題・調べ学習）を週3時間程度必要とする
教材教科書参考書	適宜、プリントを配布する。発表資料については、演習時にコメントし、修正後、再提出すること
留意点	弘前大学図書館との共通利用証を準備すること。発表、レポート等にはパソコンを使用する。アクティブラーニングを導入している。学外でのイベント運営（青森市・八戸市）がある。

科目名	日本語学演習ＩＣ	科目ナンバリング	L-JSLA3-11.S	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
		科目コード	J52002		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	藁科　勝之	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 テーマ：ことばの誤用と規範 　誤用は常に発生している。単なる不注意でなければ、その誤りの裏には何が潜んでいるのか、言語変化の要因となる契機を、それらの誤用例から探る。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	（１）ことばの用法について、誤用と正用・規範の基準について説明できる。 （２）誤用の原因について分析できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	はじめに	演習の進め方 発表、レポートについて	演習資料配付
第2回	誤用とは何か	誤用と正用の規準	講義・解説
第3回	誤用―課題例の提示（１）	音声・アクセント、音韻にかかわる例 文字・表記にかかわる例	発表に向けての事前準備
第4回	誤用―課題例の提示（２）	語法、文法にかかわる例 修辞・レトリック、成句、慣用句にかかわる例	発表に向けての事前準備
第5回	誤用例の収集と分析（１）	事象の分析 誤用かケアレスミスか	講義・解説
第6回	誤用例の収集と分析（２）	事象の分析 誤用かケアレスミスか	講義・解説
第7回	受講生による課題と提示	各自のテーマ、分析対象例の提示	プレゼンテーション ディスカッション
第8回	受講生の発表（第１回）	発表と質疑応答、意見交換（第１回）	プレゼンテーション ディスカッション
第9回	受講生の発表（第２回）	発表と質疑応答、意見交換（第２回）	プレゼンテーション ディスカッション
第10回	受講生の発表（第３回）	発表と質疑応答、意見交換（第３回）	プレゼンテーション ディスカッション
第11回	受講生の発表（第４回）	発表と質疑応答、意見交換（第４回）	プレゼンテーション ディスカッション
第12回	受講生の発表（第５回）	発表と質疑応答、意見交換（第５回）	プレゼンテーション ディスカッション
第13回	受講生の発表（第６回）	発表と質疑応答、意見交換（第６回）	プレゼンテーション ディスカッション
第14回	受講生の発表（第７回）	発表と質疑応答、意見交換（第７回）	プレゼンテーション ディスカッション
第15回	まとめ	全発表についての意見交換	ディスカッション

授業方法（オンデマンド・アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	ディベート	発表、ポスター作成	資料記入	理解度チェック	授業中のノート取り		

評価方法及び評価基準	２/３以上の出席を条件として、 調査報告・発表：課題について適切に調査・考察し、説得的に発表しているか（４０％）。 期末レポート：用例の適切な量と質、処理と分析、説明記述を総合的に判断する（６０％）。 プレゼンテーションおよびレポートの評価に、ルーブリック評価を用いる。
課題等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。
事前事後学修	自ら設定した発表課題について、事前に調査。考察し、説得的に発表できるよう、念入りに検討すること。 発表後は、質疑応答の結果を踏まえて、課題解決への道筋の整理を行うこと。合わせて1週間に3時間の事前・事後学修を要する。
教材 教科書 参考書	特定の教科書は用いない。 必要な演習資料は、適宜印刷配布する。 また参考書等は、授業時に随時紹介する。
留意点	活発な質疑応答を心がけること。

科目名	日本語学演習ＩＤ	科目ナンバリング	L-JSLA3-12.S	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	後期
		科目コード	J52003		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	藁科　勝之	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 テーマ：ことばのゆれと変化 　ゆれは常に発生している。両形または複数形の併存はなぜ生ずるのか、また、そのゆれの裏には何が潜んでいるのか、言語変化の要因となる契機を、それらのゆれの例から探る。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	（１）ことばの用法について、ゆれと規範の基準について説明できる。 （２）ゆれの原因について分析できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	はじめに	演習の進め方 発表、レポートについて	演習資料配付
第2回	演習の進め方 発表、レポートについて	音声・アクセント、音韻にかかわる例 文字・表記にかかわる例	講義・解説
第3回	ゆれ―課題例の提示	語法、文法にかかわる例 修辞・レトリック、成句、慣用句にかかわる例	講義・解説
第4回	ゆれの用例の収集と分析（１）	事象の分析 ゆれか誤用か	発表に向けての事前準備
第5回	ゆれの用例の収集と分析（２）	事象の分析 ゆれか誤用か	発表に向けての事前準備
第6回	受講生による課題と提示	各自のテーマ、分析対象例の提示	プレゼンテーション ディスカッション
第7回	受講生の発表（第１回）	各自のテーマ、分析対象例の提示	プレゼンテーション ディスカッション
第8回	受講生の発表（第２回）	各自のテーマ、分析対象例の提示	プレゼンテーション ディスカッション
第9回	受講生の発表（第３回）	発表と質疑応答、意見交換（第３回）	プレゼンテーション ディスカッション
第10回	受講生の発表（第４回）	発表と質疑応答、意見交換（第４回）	プレゼンテーション ディスカッション
第11回	受講生の発表（第５回）	発表と質疑応答、意見交換（第５回）	プレゼンテーション ディスカッション
第12回	受講生の発表（第６回）	発表と質疑応答、意見交換（第６回）	プレゼンテーション ディスカッション
第13回	受講生の発表（第７回）	発表と質疑応答、意見交換（第７回）	プレゼンテーション ディスカッション
第14回	受講生の発表（第８回）	発表と質疑応答、意見交換（第８回）	プレゼンテーション ディスカッション
第15回	まとめ	全発表についての意見交換	ディスカッション

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	ディベート	発表、ポスター作成	資料記入	理解度チェック	授業中のノート取り		

評価方法及び評価基準	２/３以上の出席を条件として、 （１）調査報告・発表：課題について適切に調査・考察し、説得的に発表しているか（４０％）。 （２）期末レポート：収集する用例の適切な量と質、それらの処理と分析、説明記述を総合的に判断する（６０％） プレゼンテーションおよびレポートの評価に、ルーブリック評価を用いる。
課題等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却する。
事前事後学修	自ら設定した発表課題について、事前に調査。考察し、説得的に発表できるよう、念入りに検討すること。 発表後は、質疑応答の結果を踏まえて、課題解決への道筋の整理を行うこと。合わせて1週間に3時間の事前・事後学修を要する。
教材教科書参考書	特定の教科書は用いない。 必要な演習資料は、適宜印刷配布する。 また参考書は、授業時に随時紹介する。
留意点	活発な質疑応答を心がけること。

科目名	日本語学演習ⅡＡ	科目ナンバリング	L-JSLA4-13.S	単位数時間	2単位	対象学年	4年	開講学期	前期
		科目コード	J52004		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	今村　かほる	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 現代語研究　ＳＮＳやネット情報等により、急速に変化しつつある現代語について、専門的に学ぶ。現代的課題としてのメディアリテラシーを意識し、社会と学問を結び付ける学習とする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	ＷＥＢ上の情報を用いて、現代語の特徴を明らかにする。ＳＮＳやネットの用語と、一般社会の用語との比較検討や若者語などについて明らかにする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	演習の進め方・評価についてのガイダンス	演習の進め方　調べ学習とその準備および評価について理解する	
第2回	現代語研究の基礎	現代語研究の基礎知識の確認	
第3回	先行研究　１	データベースを利用して先行研究リストを作成する	
第4回	先行研究　２	ｗｅｂ上のアーカイブから、情報を入手する・文献複写する	
第5回	研究方法	先行研究を乗り越え、仮説を検証するための方法	
第6回	データの均質性とは	比較できるデータとできないデータ　調査方法の妥当性を知る	
第7回	データの生産１	パソコン機器を用いてデータ入力する	
第8回	データの生産２	パソコン機器を用いてデータ入力する	
第9回	データの生産３	パソコン機器を用いてデータ入力する	
第10回	データ分析１	表・グラフ・図などデータを加工する	
第11回	データ分析２	論理的考察	
第12回	発表１	各個人のテーマに基づく発表	
第13回	発表２	各個人のテーマに基づく発表	
第14回	発表３	各個人のテーマに基づく発表	
第15回	総括	前期の学習の振り返り	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	実習、フィールドワーク	発表、ポスター作成						

評価方法及び評価基準	演習時のコメント10%・課題提出20%・発表50%・質疑15%・グループワーク5% 学術研究の基本的知識と手順を身につけているかを、発表だけでなくグループワークワーク時にも評価する。
課題等	ＰＰＴを用いて発表資料を作成
事前事後学修	授業時に指示する。参照すべきＷｅｂページ、文献資料を用いて、調べ学習をする。 事前事後学習（課題・調べ学習）を週3時間程度必要とする
教材教科書参考書	石黒圭・石黒愛『言語学者も知らない謎な日本語』教育評論社　ISBN:978-4-86624-107-4　1980円
留意点	パソコンの操作とプレゼンテーションツールの扱いが必要。各自の課題解決型の学習をする。弘前大学図書館との共通利用証を準備すること。

科目名	日本語学演習ⅡＢ	科目ナンバリング	L-JSLA4-14.S	単位数時間	2単位	対象学年	4年	開講学期	後期
		科目コード	J52005		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	今村　かほる	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 現代語研究　日本語を取り巻く現代的課題について、専門的に学ぶ。外国人のための日本語教育や、日本語景観、やさしい日本語などの現代的課題を意識し、社会と学問を結び付ける学習とする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	日本社会の言語的課題を発見し、社会言語学としての理解と解決策を考える。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	演習の進め方・評価に関するガイダンス	演習の進め方　調べ学習とその準備および評価について理解する	
第2回	先行研究	文献調査の基礎　基本文献の扱い方とデータ収集	
第3回	先行研究	先行研究文献のリスト作成と所在確認	
第4回	先行研究	先行研究文献のリスト作成と所在確認	
第5回	文献収集	先行研究文献の収集　図書館	
第6回	文献収集	先行研究文献の収集　web	
第7回	文献整理	先行研究文献のまとめと分析	
第8回	発表	各個人のテーマに基づく発表	
第9回	発表	各個人のテーマに基づく発表	
第10回	発表	各個人のテーマに基づく発表	
第11回	発表	各個人のテーマに基づく発表	
第12回	発表	各個人のテーマに基づく発表	
第13回	発表	各個人のテーマに基づく発表	
第14回	発表	各個人のテーマに基づく発表	
第15回	総括	学修の振り返り	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	実習、フィールドワーク	発表、ポスター作成	グループワーク				

評価方法及び評価基準	演習時のコメント10%・課題提出20%・発表50%・質疑15%・グループワーク5% 学術研究の基本的知識と手順を身につけているかを、発表だけでなくグループワークワーク時にも評価する
課題等	ＰＰＴを用いて発表資料を作成
事前事後学修	授業時に指示する。参照すべきＷｅｂページ、文献資料を用いて、調べ学習をする。 事前事後学習（課題・調べ学習）を週3時間程度必要とする
教材教科書参考書	プリント配布。
留意点	パソコンの操作とプレゼンテーションツールの扱いが必要。各自の課題解決型の学習をする。弘前大学図書館との共通利用証を準備すること。

科目名	日本文学概論Ａ	科目ナンバリング	L-JSLI1-00.J	単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
		科目コード	J53000		30時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	伊藤　慎吾	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 日本文学のアウトラインを理解するためには、日本の文化史の一環として文学を捉えることが有効です。そこで近現代に至るまで共有される物語コンテンツを取り上げていきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	文化史の中の文学ということを理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・授業の概要 ・世界と趣向	
第2回	共有コンテンツ（１）	・歌舞伎用語〈世界〉	
第3回	共有コンテンツ（２）	・実例を見付け出す	
第4回	物語と話型（１）	・話型とは何か	
第5回	物語と話型（２）	・実例を見付け出す	
第6回	プロットとモティーフ（１）	・プロットとは何か　・モティーフとは何か	
第7回	プロットとモティーフ（２）	・実例を見付け出す	
第8回	和歌と共有知	・季語と名所	
第9回	俳諧と共有知	・付け合いと物語	
第10回	クロスオーバーと共有知（１）	・『時代不同歌合』など	
第11回	クロスオーバーと共有知（２）	・見立番付など	
第12回	中国古典と共有知	・『三国志』の〈世界〉	
第13回	近代の大衆文化と共有知	・大衆文学・講談・映画・漫画など	
第14回	現代の大衆文化と共有知	・異世界ファンタジー	レポート提出
第15回	まとめ	・文化史の中の文学	レポート返却

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	特になし
評価方法及び評価基準	平常点（50%） 課題レポート（50%）
課題等	レポートは原則としてプリントアウトして授業内提出。
事前事後学修	事前学習：基本的な術語や固有名詞について調べておく。 事後学習：配布資料を読み直す。
教材教科書参考書	教科書使用せず。随時プリント配布。参考書は随時紹介。
留意点	毎回リアクションペーパーを書いてもらいます（平常点）。

科目名	日本文学概論Ｂ	科目ナンバリング	L-JSLI1-01.J	単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
		科目コード	J53001		30時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	櫛引　洋一	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 「津軽文士と日本の近代文学」がテーマ。太宰治、寺山修司など郷土を代表する13人の文人の代表作を通して、日本の近代文学史における主要な事項について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	１　郷土の文人についての基礎知識を習得する。 ２　日本の近代文学史における主要な事項について理解を深める。 ３　「津軽文士と日本の近代文学」のテーマで文章を書く。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	郷土の文学についての理解度と本講座の概要を確認する。	
第2回	陸　羯南（評論）	陸羯南と〈評論〉について学ぶ。	
第3回	佐藤紅緑（児童文学）	佐藤紅緑と〈児童文学〉について学ぶ。	
第4回	葛西善蔵（私小説）	葛西善蔵 と〈私小説〉について学ぶ。	
第5回	福士幸次郎（口語自由詩）	福士幸次郎と〈口語自由詩〉について学ぶ。	
第6回	高木恭造（津軽方言詩）	高木恭造と〈津軽方言詩〉について学ぶ。	
第7回	一戸謙三〈抒情詩〉	一戸謙三と〈抒情詩〉について学ぶ。	
第8回	石坂洋次郎（新聞小説）	石坂洋次郎と（新聞小説）について学ぶ。	
第9回	平田小六（プロレタリア文学）	平田小六と（プロレタリア文学）について学ぶ。	
第10回	太宰　治（芥川賞）	太宰治と〈芥川賞〉について学ぶ。	
第11回	今　官一（直木賞）	今官一と〈直木賞〉について学ぶ。	
第12回	長部日出雄（津軽物）	長部日出雄と〈津軽物〉について学ぶ。	
第13回	成田千空（俳句）	成田千空と〈俳句〉について学ぶ。	
第14回	寺山修司（短歌）	寺山修司と〈短歌〉について学ぶ。	
第15回	まとめ	本講座での学習事項をふまえてレポートをまとめる。	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	資料記入	理解度チェック	授業中のノート取り	リフレクションシート				

評価方法及び評価基準	授業への取り組み・感想文30パーセント、期末のレポート70%として合算する。 レポートの評価は、基礎的な知識、感動点とその根拠、意見の明確さ、を主な観点とする。
課題等	毎回、短い感想文を提出する。
事前事後学修	講義で興味を抱いた点や疑問点について各自学習し、期末のレポート作成に備える。
教材教科書参考書	随時プリントを配布する。
留意点	6回以上欠席した場合は、単位を認定しない（公欠や病欠を除く）。

科目名	日本古典文学史	科目ナンバリング	L-JSLI1-02.UJ	単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
		科目コード	J53008		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	伊藤　慎吾	授業形態	講義	単独
	教員免許	必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 古典文学の歴史的展開を押さえ、それぞれの時代にどのような文学が生まれていったかを、具体的な知識を覚えながら学んでもらいます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	・各時代にどのような文学が現れたのか、具体的に把握する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・文学史のアウトライン	
第2回	神話（１）	・『古事記』『日本書紀』「神代巻」	
第3回	神話（２）	・八岐大蛇退治譚と日本武尊東征譚	
第4回	説話文学（１）	・古代仏教説話集から近世説話集へ	
第5回	説話文学（２）	・源頼義東征譚（『今昔物語集』）	
第6回	軍記物語（１）	・初期軍記から近世軍記へ	
第7回	軍記物語（２）	・『平家物語』壇ノ浦の合戦	
第8回	中世神話	・『平家物語』『太平記』「剣の巻」	
第9回	和歌と古典学（１）	・『古今和歌集』	
第10回	和歌と古典学（２）	・『伊勢物語』	
第11回	連歌と俳諧	・雅と俗　・座の文芸	
第12回	幸若舞曲	・平家物語　・源義経　・曾我兄弟	
第13回	お伽草子（１）	・概要	
第14回	お伽草子（２）	・絵巻と絵本	レポート提出
第15回	まとめと近世的展開	・これまでの整理と近世の多様な展開の説明	レポート返却

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	特になし
評価方法及び評価基準	平常点（50%） 課題レポート（50%）
課題等	レポートは原則としてプリントアウトして授業内提出。
事前事後学修	事前学習：基本的な術語や固有名詞について調べておく。 事後学習：配布資料を読み直す。
教材教科書参考書	教科書使用せず。随時プリント配布。参考書は随時紹介。
留意点	毎回、重要な固有名詞や術語を覚えること。

科目名	日本近現代文学史	科目ナンバリング	L-JSLI1-03.UJ	単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期集中
		科目コード	J53011		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	井上　諭一	授業形態	講義	単独
	教員免許	必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 文学部の学生にとってごく常識的な近代文学史の知識を広く修得する。対象とする時代は、江戸時代後期から現代に至る、広い意味での「近代」すべてである。その際、近代文学を代表する小説約１００篇から本文の一部をプリントで提示し、勉強の手がかりとする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	近代現代文学史の流れについて基本を理解し、文学部の学生として最低限知っていなければならない基礎的知識を得たのち、自分なりの見解をもつようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	導入；近代の始まり、１９世紀中葉の文学状況	江戸中期から「近代」(アーリーモダン)が始まっていたことを、経済社会文化の面から実証する。また当時の東アジア、西欧における文学状況について一覧する。	
第2回	明治文学史１；高座と口語	三遊亭円朝、二葉亭四迷	ディスカッションあり
第3回	明治文学史２；ロマンティシズム	北村透谷、樋口一葉	ディスカッションあり
第4回	明治文学史３；自然主義	国木田独歩、島崎藤村	ディスカッションあり
第5回	明治文学史４	夏目漱石、森鴎外	ディスカッションあり
第6回	大正文学史１；耽美派	永井荷風、谷崎潤一郎	ディスカッションあり
第7回	大正文学史２；白樺派	志賀直哉、有島武郎	ディスカッションあり
第8回	大正文学史３；新思潮派、奇蹟派	芥川龍之介、葛西善蔵	ディスカッションあり
第9回	昭和文学史１；モダニズム	横光利一、川端康成	ディスカッションあり
第10回	昭和文学史２；２０世紀文学	伊藤整、堀辰雄、太宰治	ディスカッションあり
第11回	昭和文学史３；戦後派	野間宏、大岡昇平、椎名麟三、その他	ディスカッションあり
第12回	昭和文学史４；第三の新人、内向の世代、その後	中上健次、村上龍、村上春樹、その他	ディスカッションあり
第13回	平成文学史１；1990年代の文学	多和田葉子、笙野頼子、川上弘美、その他	ディスカッションあり
第14回	平成文学史２；ゼロ年代の文学	長嶋有、絲山秋子、阿部和重、その他	ディスカッションあり
第15回	平成文学史３～令和文学史	まとめに代えて：円城塔、伊藤計畫、宇佐美りん、その他	オンライン・オンデマンド

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	グループワーク	ディベート	発表、ポスター作成	まとめアクティビティ	資料記入			

評価方法及び評価基準	学期末の講義時間内に試験１回を実施（持ち込み禁止、６０分）。 全体の30%を講義（ディスカッションあり）への参加度合いで評価し、試験の得点を70%として合算する。試験では、基本的な知識を修得していれば６０%、歴史的な経緯について理解していれば80%、自分自身の見解を記述してあれば90%以上得点できるように問題を設定する。
課題等	毎時間、リアクションペーパーを提出する。ペーパー自体は返却しないが、質問などその内容については次の講義時間に触れる。
事前事後学修	原則として、事前に対象となる作家・作品を読んでおくことが必要。特に、長編の小説の場合はそれなりの時間が必要になるので、事前事後合わせて、一回の授業あたり10時間程度の学修が必須である。
教材教科書参考書	安藤宏『日本近代小説史』（中央公論新社）ISBN-13: 978-4121100207、プリントを併用。参考書は適宜指示する。
留意点	講義時間中の質疑応答だけではなく、ネット（Teams）を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。

科目名	地域文学研究	科目ナンバリング	L-JSLI3-04.U	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	後期
		科目コード	J53010		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	櫛引　洋一	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 「津軽文士が描いた岩木山」がテーマ。太宰治、石坂洋次郎など郷土を代表する11人の文人が岩木山について書いた文章を読み、それについての感想を書く。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	1　「文学の言葉」の素晴らしさを知り、読解力を高める。 2　読解した文章についての短い感想文を書き、表現力を高める。 3　郷土および郷土の文人についての理解を深める。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	岩木山についての意識、および本講座の概要を確認する。	
第2回	陸羯南「名山詩」	「名山詩」を読み、その感想を書く。	
第3回	佐藤紅緑「少年讃歌」	「少年讃歌」を読み、その感想を書く。	
第4回	福士幸次郎「詩人 福士幸次郎」	「詩人 福士幸次郎」（今官一著）　を読み、その感想を書く。	
第5回	一戸謙三「弘前(シロサギ)」	「弘前(シロサギ)」を読み、その感想を書く。	
第6回	今　官一「岩木山」	「岩木山」を読み、その感想を書く。	
第7回	高木恭造「帰郷」	「帰郷」を読み、その感想を書く。	
第8回	葛西善蔵「酔狸州七席七題」	「酔狸州七席七題」を読み、その感想を書く。	
第9回	太宰治「津軽」	「津軽」を読み、その感想を書く。	
第10回	石坂洋次郎「わが日わが夢」	「わが日わが夢」を読み、その感想を書く。	
第11回	平田小六「囚はれた大地」	囚はれた大地」を読み、その感想を書く。	
第12回	長部日出雄「一生新人」	「一生新人」を読み、その感想を書く。	
第13回	文豪が描いた岩木山①	田山花袋、森鷗外らが描いた岩木山を読む。	
第14回	文豪が描いた岩木山②	与謝野晶子、河東碧梧桐らが描いた岩木山を読む。	
第15回	まとめ	本講座での学習事項をふまえてレポートをまとめる。	

授業方法(オンデマンド、アクティブ・ラーニング等)	資料記入	理解度チェック	授業中のノート取り	リフレクションシート				

評価方法及び評価基準	授業への取り組み・感想文50パーセント、期末のレポート50%として合算する。 レポートの評価は、基礎的な知識、感動点とその根拠、意見の明確さ、を主な観点とする。
課題等	毎回、感想文を提出する。
事前事後学修	講義で興味を抱いた点や疑問点について各自学習し、期末のレポート作成に備える。
教材教科書参考書	随時プリントを配布する。
留意点	6回以上欠席した場合は、単位を認定しない（公欠や病欠を除く）。

科目名	古代文学	科目ナンバリング	L-JSLI2-05.SJ	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目コード	J54042		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	伊藤　慎吾	授業形態	講義	単独
	教員免許	選択必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 古代文学にはどのように怪異・妖怪が描かれ、後世とはどのように違っているのか、具体的に読むことを通して考えてみましょう。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	・古代人の心性に触れ、現代と比較する視点を持つことができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・授業のアウトライン	
第2回	天狗（あまつきつね）	・『日本書紀』	
第3回	牛（牛窓説話）（１）	・『備前国風土記逸文』	
第4回	牛（牛窓説話）（２）	・『八幡宮縁起』	
第5回	霊鬼	・『日本霊異記』	
第6回	歌い骸骨	・『日本霊異記』	
第7回	土蜘蛛（１）	・『日本書紀』	
第8回	土蜘蛛（２）	・『豊後国風土記』	
第9回	土蜘蛛（３）	・『肥前国風土記』	
第10回	野槌（のずち）	・『日本書紀』	
第11回	蛟（みずち）	・『日本書紀』	
第12回	夜刀神（やとのかみ）	・『常陸国風土記』	
第13回	八岐大蛇（やまたのおろち）	・『古事記』『日本書紀』「神代巻」	
第14回	黄泉醜女（よもつしこめ）	・『日本書紀』	レポート提出
第15回	まとめ	・これまでの授業の整理	レポート返却

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	特になし
評価方法及び評価基準	平常点（50%） 課題レポート（50%）
課題等	レポートは原則としてプリントアウトして授業内提出。
事前事後学修	事前学習：基本的な術語や固有名詞について調べておく。 事後学習：配布資料を読み直す。
教材教科書参考書	教科書使用せず。随時プリント配布。参考書は随時紹介。
留意点	毎回、重要な固有名詞や術語を覚えること。

科目名	中世文学	科目ナンバリング	L-JSLI2-07.S	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目コード	J54044		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	伊藤　慎吾	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 中世後期の物語であるお伽草子には鳥獣虫魚、植物、器物といったあらゆるものがキャラクター化されました。そうした擬人化物語の世界を見ていきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	日本のファンタジーの歴史的展開におけるお伽草子の重要性を理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・お伽草子とは何か	
第2回	キャラクターと擬人化	・キャラクターとは何か　・擬人化とは何か	
第3回	お伽草子異類物	・異類とは何か　・異類物とは何か	
第4回	動物の擬人化（上）	・『十二類絵巻』十二支の動物と狸を大将とする動物たちの合戦物語	
第5回	動物の擬人化（中）	・続き	
第6回	動物の擬人化（下）	・続き	
第7回	魚と植物の擬人化（上）	・『精進魚類物語』野菜と魚介類の合戦物語	
第8回	魚と植物の擬人化（中）	・続き	
第9回	魚と植物の擬人化（下）	・その後の精進魚類物	
第10回	『四生の歌合』	・鳥獣虫魚の歌合	
第11回	虫の擬人化（上）	・『虫の歌合』虫たちの社会の歌合	
第12回	虫の擬人化（中）	・続き	
第13回	虫の擬人化（下）	・続き	
第14回	付喪神	・『付喪神絵巻』	レポート提出
第15回	まとめ	・これまでの整理	レポート返却

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	特になし
評価方法及び評価基準	平常点（50%） 課題レポート（50%）
課題等	レポートは原則としてプリントアウトして授業内提出。
事前事後学修	事前学習：基本的な術語や固有名詞について調べておく。 事後学習：配布資料を読み直す。
教材教科書参考書	【教科書】使用せず。随時プリント配布。 【参考書】伊藤慎吾編『お伽草子超入門』勉誠出版、2020、978-4-585-29188-6
留意点	毎回、重要な固有名詞や術語を覚えること。

科目名	近代文学	科目ナンバリング	L-JSLI2-09.SJ	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目コード	J54046		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	帆苅　基生	授業形態	講義	単独
	教員免許	選択必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 この授業では日本近代文学が追究した〈リアリティ〉とは何かについて考察していく。現実や日常生活を題材とした作品と、いわゆる〈ファンタジー〉や〈SF〉などのジャンルに入れられるような虚構の度合いの高い作品を比較しながら、分析し日本近現代文学が追究した〈リアリティ〉の実像について考察を深めていきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	・日本近現代文学における言語表現の試みに理解を深める。 ・〈虚構(フィクション)〉である文学が、〈現実(リアル)〉をど持ち得ようとしたのか、その様相を理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	授業内容の説明	
第2回	近代文学史概観	日本近代文学史を概観する	
第3回	近代小説のはじまり	「小説神髄」を通して〈リアリティ〉とは何かを考える	
第4回	〈告白〉する文学	島崎藤村「破戒」・田山花袋「蒲団」	
第5回	もう一つのリアリティ	明治の政治小説「浮城丸」を読む	
第6回	〈異界〉とつながる①	森鷗外「舞姫」と泉鏡花「高野聖」を読む	
第7回	〈異界〉とつながる②	泉鏡花「草迷宮」を比較文学的に読む	
第8回	〈異界〉とつながる③	近代小説で〈異界〉はどのように描かれてきたか概観する	
第9回	描かれた理想郷（ユートピア）①	明治の政治小説「雪中梅」で描かれた〈未来〉	
第10回	描かれた理想郷（ユートピア）②	谷崎潤一郎「小さな王国」を読む	
第11回	描かれた理想郷（ユートピア）③	近代小説で〈理想郷（ユートピア）〉はどのように描かれてきたか概観する	
第12回	夢の文学①	夏目漱石「夢十夜」を読む	
第13回	夢の文学②	中島敦「光と風と夢」を読む	
第14回	夢の文学③	近代小説で〈夢〉はどのように描かれてきたか概観する	
第15回	まとめ	日本近代文学において〈リアリティ〉がどのように追究されてきたのか考察する	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	クイズ、小テスト	理解度チェック					

評価方法及び評価基準	・コメントシート（毎回授業後とに提出）30点 ・小課題（ブックレポートや内容確認の小課題）30点 ・期末レポート40点
課題等	毎回コメントシートを提出する。基本的に返却しないが、質問や感想などその内容については次の講義時間内に触れる。 最終課題として期末レポートで小説の読解をしてもらう。
事前事後学修	授業時で配布された資料や、オンライン授業アプリで支持された資料を読解する
教材教科書参考書	毎回授業ごとに資料を配付する その他適宜オンライン授業アプリを用いて支持する
留意点	なし

科目名	現代文学	科目ナンバリング	L-JSLI2-10.SJ	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目コード	J54047		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上　諭一	授業形態	講義	単独
	教員免許	選択必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 現代日本を代表する作家の作品を精読する。極めて微細な点、遠い影響関係についても排除せず、読み過ぎとの誹りを恐れずに積極的に読み込む。授業時間90分を45分で前後に分け、中間で質問を受け付けるなど、2部構成で実行する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	現代日本文学を代表する芸術的な表現について、十分な読解力が得られる。テクストの表面上の意味だけでなく、社会状況や文化状況に照らして、その意味するところを理解できるようになる。学問的で精密な討論ができるようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	導入	使用するテクスト、講義方法、予習・復習、評価について確認	ディスカッションあり
第2回	三浦しをん1	『きみはポラリス』を読む（１）	ディスカッションあり
第3回	三浦しをん	『きみはポラリス』を読む（２）	ディスカッションあり
第4回	三浦しをん2	『きみはポラリス』を読む（３）	ディスカッションあり
第5回	三浦しをん3	『きみはポラリス』を読む（４）	ディスカッションあり
第6回	三浦しをん4	『きみはポラリス』を読む（５）	ディスカッションあり
第7回	三浦しをん5	『きみはポラリス』を読む（６）	ディスカッションあり
第8回	川上弘美1	「どこから行っても遠い町」を読む (1)	ディスカッションあり
第9回	川上弘美2	「どこから行っても遠い町」を読む (2)	ディスカッションあり
第10回	川上弘美3	「どこから行っても遠い町」を読む (3)	ディスカッションあり
第11回	川上弘美4	「どこから行っても遠い町」を読む (4)	ディスカッションあり
第12回	川上弘美5	「どこから行っても遠い町」を読む (5)	ディスカッションあり
第13回	川上弘美6	「どこから行っても遠い町」を読む (6)	ディスカッションあり
第14回	同時代作家の動向(多和田葉子を中心に)	多和田葉子、小川洋子、絲山秋子、その他を読む	ディスカッションあり
第15回	まとめ	日本現代文学の方法	ディスカッションあり

授業方法(オンデマンド、アクティブ・ラーニング等)	グループワーク	ディベート	発表、ポスター作成	資料記入				

評価方法及び評価基準	学期末にレポートを一回課す。（3000字程度） 全体の30%を講義（一部、演習的形式で行なうので、講義時間内にディスカッションの場面がある。ただし、感染症の流行状況によって変動）への参加度合いで評価し、レポートの得点を70%として合算する。レポートでは、基本的な知識を修得していれば60%、他者の見解などにも触れ、自分の独創性な意見が記述できていれば80%、自分自身の見解と他者の意見とを照らし合わせて検討できていれば90%以上の得点とする。
課題等	毎時間、リアクションペーパーを提出する。ペーパー自体は返却しないが、質問などその内容については次の講義時間に触れる。
事前事後学修	発対象となる短編を事前に読んでおくことはもちろん、作品内の地域性や先行する作品との関係などについて、事前にある程度調べておくことが望ましい。（予習3時間以上必要）また、全員、関連する事項について事後に3時間以上の学修が必要となる。
教材教科書参考書	三浦しをん『きみはポラリス』新潮文庫　ISBN-13 978-4101167602 ： 川上弘美『どこから行っても遠い町』新潮文庫　ISBN-13　：　978-4101292410
留意点	講義時間中の質疑応答だけではなく、ネット（Teams）を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。

科目名	古典文学演習ＩＡ	科目ナンバリング	L-JSLI3-20.S	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
		科目コード	J54048		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	伊藤　慎吾	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 お伽草子『文正草子』は塩を作り売っていた男が天皇家に連なるほど出世する庶民の出世物語です。その読解作業をしてもらいます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	・内容を把握し、あらすじを作ることができる。 ・正しい釈文を作ることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・お伽草子庶民物　・授業の進め方	
第2回	発表の手順	・発表の実例	
第3回	学生発表（１）	・口頭発表と質疑応答	
第4回	学生発表（２）	・口頭発表と質疑応答	
第5回	学生発表（３）	・口頭発表と質疑応答	
第6回	学生発表（４）	・口頭発表と質疑応答	
第7回	学生発表（５）	・口頭発表と質疑応答	
第8回	学生発表（６）	・口頭発表と質疑応答	
第9回	学生発表（７）	・口頭発表と質疑応答	
第10回	学生発表（８）	・口頭発表と質疑応答	
第11回	学生発表（９）	・口頭発表と質疑応答	
第12回	学生発表（１０）	・口頭発表と質疑応答	
第13回	学生発表（１１）	・口頭発表と質疑応答	
第14回	学生発表（１２）	・口頭発表と質疑応答	担当箇所の釈文提出
第15回	まとめ	・完成した釈文全体のチェック	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	特になし
評価方法及び評価基準	・口頭発表、作成資料（50%） ・釈文完成原稿（20%） ・授業への積極的な参加（質疑応答等）（30%）
課題等	口頭発表、作成資料、授業への積極的な参加（質疑応答等）
事前事後学修	事前に資料を読み、事後に発表内容を顧みる
教材教科書参考書	【教科書】今泉定介・畠山健校定『御伽草子　前』国立国会図書館デジタルコレクション https://dl.ndl.go.jp/pid/992891/1/8【参考書】岡田啓助『文正草子の研究』桜楓社、1983、国立国会図書館デジタルコレクション（要利用登録）　https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I000001614353#bib
留意点	授業に参加する皆さんが「授業を作る」という意識をもってください。

科目名	古典文学演習ＩＢ	科目ナンバリング	L-JSLI3-21.S	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	後期
		科目コード	J54049		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	伊藤　慎吾	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 お伽草子『魚（うお）の歌合』の読解を通して、人間ならざるもののキャラクター化、日本におけるファンタジーの形成、和歌文学と物語文学の融合など様々なことを学んでもらいます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	・内容を把握し、あらすじを作ることができる。　・ 正しい釈文を作ることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・お伽草子異類物　・授業の進め方	
第2回	発表の手順　タイとコイ	・発表の実例　左の歌／右の歌／判詞の解読	
第3回	学生発表（１）アンコウとフグ	・口頭発表と質疑応答	
第4回	学生発表（２）アユとハイ（ハヤ）	・口頭発表と質疑応答	
第5回	学生発表（３）ウナギとナマズ	・口頭発表と質疑応答	
第6回	学生発表（４）アジとフナ	・口頭発表と質疑応答	
第7回	学生発表（５）ハマグリとタコ	・口頭発表と質疑応答	
第8回	学生発表（６）スズキとカツオ	・口頭発表と質疑応答	
第9回	学生発表（７）イワシとタチウオ	・口頭発表と質疑応答	
第10回	学生発表（８）エビとカニ	・口頭発表と質疑応答	
第11回	学生発表（９）マスとサケ	・口頭発表と質疑応答	
第12回	学生発表（１０）ナマコとアワビ	・口頭発表と質疑応答	
第13回	学生発表（１１）ドジョウとカジカ	・口頭発表と質疑応答	
第14回	学生発表（１２）トビウオとサヨリ	・口頭発表と質疑応答	担当箇所の釈文提出
第15回	まとめ	・完成した釈文全体のチェック	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	特になし
評価方法及び評価基準	・口頭発表、作成資料（50%） ・釈文完成原稿（20%） ・授業への積極的な参加（質疑応答等）（30%）
課題等	口頭発表、作成資料、授業への積極的な参加（質疑応答等）
事前事後学修	事前に資料を読み、事後に発表内容を顧みる
教材教科書参考書	【教科書】右書収録の翻刻を配布。『仮名草子集成』42、東京堂出版、2007、978-4-490-30540-1 【参考書】『魚の歌合』国立国会図書館デジタルコレクション　https://dl.ndl.go.jp/pid/1288451
留意点	授業に参加する皆さんが「授業を作る」という意識をもってください。

科目名	近現代文学演習ＩＡ	科目ナンバリング	L-JSLI3-24.S	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
		科目コード	J54052		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上　諭一	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 参加各人の興味あるテクストを選び、最近の代表的な論文をそれに併せて批判的に読んで行く。（一応の候補となる作品は担当者から示す）議論の領域は、狭義の「文学」にとどまらない。発表対象作品は、参加する各人の希望によって決める。また、原則として発表は個人で行なうものとし、グループ発表は行なわない。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	一般的な文学理論（批評理論）を各自の“読み”“解釈”に結びつけて行く、その手順を体得する。最終目標は、新しくて力強く、魅力的な読みにたどり着くことであるが、社会・世界との接点は常に忘れない。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	導入；立場について	基本的な学問的立場の確認、発表順の決定	ディスカッションあり
第2回	予備的な討論	問題意識の洗い出し	ディスカッションあり
第3回	発表第１回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第4回	発表第２回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第5回	発表第３回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第6回	発表第４回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第7回	発表第５回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第8回	中間討論	補足発表と、これまでの議論を踏まえてのやや包括的な討論	ディスカッション45分
第9回	発表第６回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第10回	発表第７回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第11回	発表第８回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第12回	発表第９回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第13回	発表第10回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第14回	発表第11回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッションあり
第15回	まとめ	総括討論	全時間、ディスカッションに当てる

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ディベート	発表、ポスター作成						

評価方法及び評価基準	発表結果（５０点満点）、質疑応答への参加状況（５０点満点）を総合。発表では、概ね歴史的な整理ができれば65%、対象とするテクストについて自分の意見を述べることができれば75%、他者の見解を参照しつつ自分の意見を客観的に述べることができれば90%以上の得点とする。
課題等	適宜指示する
事前事後学修	対象となる作品については、事前に読了しておく必要がある。（予習2～3時間）また、演習中に発見された問題については、上級学年らしい自学自習が期待される。（事後学修2～10時間）
教材教科書参考書	発表内容により異なるので、事前には指定しない。複数の版型がある場合には、出来る限り安価なテクストを用いる。 参考書は、発表内容に応じて適宜指示する。
留意点	演習時間中には参加者全員がネットに接続し、いわば「調べながら討論する」ことを前提とする。発表資料等はできる限り事前にTeamsにアップし、効率良い勉強をするように心がける。

科目名	近現代文学演習ＩＢ	科目ナンバリング	L-JSLI3-25.S	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	後期
		科目コード	J54053		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上　諭一	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 基本的には前期の「A」と同じで、参加各人の興味あるテクストを選び、最近の代表的な論文をそれに併せて批判的に読んで行く。議論の領域は、狭義の「文学」にとどまらない。発表対象作品も前期同様に、参加する各人の希望によって決める。発表は個人で行なうものとし、グループ発表は行なわない。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	一般的な文学理論（批評理論）を各自の“読み”“解釈”に結びつけて行く、その手順を体得する。最終目標は、新しくて力強く、魅力的な読みにたどり着くことであるが、社会・世界との接点は常に忘れない。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	導入；立場について	基本的な学問的立場の確認、発表順の決定	ディスカッションあり
第2回	予備的な討論	問題意識の洗い出し	ディスカッションあり
第3回	発表第１回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第4回	発表第２回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第5回	発表第３回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第6回	発表第４回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第7回	発表第５回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第8回	中間討論	補足発表と、これまでの議論を踏まえてのやや包括的な討論	ディスカッション45分
第9回	発表第６回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第10回	発表第７回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第11回	発表第８回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第12回	発表第９回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第13回	発表第10回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第14回	発表第11回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッションあり
第15回	まとめ	総括討論	全時間、ディスカッションに当てる

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ディベート	発表、ポスター作成						

評価方法及び評価基準	発表結果（５０点満点）、質疑応答への参加状況（５０点満点）を総合。発表では、概ね歴史的な整理ができれば65%、対象とするテクストについて自分の意見を述べることができれば75%、他者の見解を参照しつつ自分の意見を客観的に述べることができれば90%以上の得点とする。
課題等	適宜指示する
事前事後学修	対象となる作品については、事前に読了しておく必要がある。（予習2～3時間）また、演習中に発見された問題については、自学自習が期待される。（事後学修2～10時間）
教材教科書参考書	発表内容により異なるので、事前には指定しない。複数の版型がある場合には、出来る限り安価なテクストを用いる。 参考書は、発表内容に応じて適宜指示する。
留意点	演習時間中には参加者全員がネットに接続し、いわば「調べながら討論する」ことを前提とする。発表資料等はできる限り事前にTeamsにアップし、効率良い勉強をするように心がける。

科目名	日本文学研究Ｂ(散文)	科目ナンバリング	L-JSLI3-12.UJ	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
		科目コード	J54055		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	櫛引　洋一	授業形態	講義	単独
	教員免許	選択必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 「太宰治の文学の魅力」がテーマ。日本を代表する作家の一人である太宰治の作品の特色、旧制高校時代を過ごした弘前とのかかわりなどを学習し、太宰治の文学の魅力や小説というジャンルについての理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	１　太宰治の作品の特色・魅力を理解する。 ２　小説というジャンルの特色を理解する。 ３　郷土という背景と作品との関係について理解を深める。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	太宰治についての理解度、および本講座の概要を確認する。	
第2回	太宰作品の魅力①	「女生徒」を読む〈告白体の魅力〉。	
第3回	太宰作品の魅力②	「お伽草紙」を読む〈パロディの魅力〉。	
第4回	太宰作品の魅力③	「斜陽」を読む〈「滅び」の美学〉。	
第5回	太宰作品の魅力④	「人間失格」を読む〈一千万人の文化遺産〉。	
第6回	同郷者が視る太宰治①	三浦哲郎(作家）の太宰治論を読む。	
第7回	同郷者が視る太宰治②	長部日出雄(作家）の太宰治論を読む。	
第8回	同郷者が視る太宰治③	鎌田　慧(ルポライター）の太宰治論を読む。	
第9回	同郷者が視る太宰治④	三浦雅士(文芸評論家）の太宰治論を読む。	
第10回	同郷者が視る太宰治⑤	相馬正一（文学研究者）の太宰治論を読む。	
第11回	太宰治と弘前①	「津軽」に描かれた弘前を読む。	
第12回	太宰治と弘前②	太宰治が下宿した旧藤田家住宅について知る。	
第13回	太宰治と弘前③	太宰治が学んだ旧制弘前高等学校について知る。	
第14回	文学の友・心の友	太宰治の〈文学の友・心の友〉今官一について知る。	
第15回	まとめ	本講座での学習事項をふまえてレポートをまとめる。	

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	資料記入	理解度チェック	授業中のノート取り	リフレクションシート				

評価方法及び評価基準	授業への取り組み・感想文30パーセント、期末のレポート70%として合算する。 レポートの評価は、基礎的な知識、感動点とその根拠、意見の明確さ、を主な観点とする。
課題等	毎回、短い感想文を提出する。
事前事後学修	講義で興味を抱いた点や疑問点について各自学習し、期末のレポート作成に備える。
教材教科書参考書	随時プリントを配布する。
留意点	6回以上欠席した場合は、単位を認定しない。

科目名	古典文学演習ⅡＡ	科目ナンバリング	L-JSLI4-30.S	単位数時間	2単位	対象学年	4年	開講学期	前期
		科目コード	J54056		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	伊藤　慎吾	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 鳥や諸国の山や名水、『源氏物語』の巻々が精霊化して、相撲をしたり碁を打ったりする様子を演じる中世の滑稽な芸能がありました。その台本を解読していきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	・内容を把握し、あらすじを作ることができる。 ・正しい釈文を作ることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・延年開口の基礎知識　・授業の進め方	
第2回	発表の手順　名所の松相撲の事	・発表の実例	
第3回	学生発表（１）鳥管絃の事	・口頭発表と質疑応答	
第4回	学生発表（２）同、当弁	・口頭発表と質疑応答	
第5回	学生発表（３）源氏囲碁の事	・口頭発表と質疑応答	
第6回	学生発表（４）同、当弁	・口頭発表と質疑応答	
第7回	学生発表（５）草木相撲の事	・口頭発表と質疑応答	
第8回	学生発表（６）同、当弁	・口頭発表と質疑応答	
第9回	学生発表（７）名水相撲の事	・口頭発表と質疑応答	
第10回	学生発表（８）同、当弁	・口頭発表と質疑応答	
第11回	学生発表（９）名所の山々相撲の事	・口頭発表と質疑応答	
第12回	学生発表（１０）同、当弁	・口頭発表と質疑応答	
第13回	学生発表（１１）歌人相撲の事	・口頭発表と質疑応答	
第14回	学生発表（１２）同、当弁	・口頭発表と質疑応答	担当箇所の釈文提出
第15回	まとめ	・完成した釈文全体のチェック	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	特になし
評価方法及び評価基準	・口頭発表、作成資料（50%） ・釈文完成原稿（20%） ・授業への積極的な参加（質疑応答等）（30%）
課題等	口頭発表、作成資料、授業への積極的な参加（質疑応答等）
事前事後学修	事前に資料を読み、事後に発表内容を顧みる。
教材教科書参考書	【教科書】右書収録の翻刻を配布。『国文東方仏教叢書』第2輯第7巻、東方書院、1928、国立国会図書館デジタルコレクション（要利用登録）https://dl.ndl.go.jp/pid/1913670
留意点	授業に参加する皆さんが「授業を作る」という意識をもってください。

科目名	古典文学演習ⅡＢ	科目ナンバリング	L-JSLI4-31.S	単位数時間	2単位	対象学年	4年	開講学期	後期
		科目コード	J54057		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	伊藤　慎吾	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 髭切（鬼丸とも）・膝丸（蜘蛛切や薄緑とも）といった名剣、神代からの神剣の系譜を説いた『剣の巻』を読みます。『古事記』『日本書紀』や中古・中世の関連説話と比較しながら、自分なりのテーマに取り組んでもらいます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	・自分の設定したテーマについて、調べたことを分かりやすく報告することができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・『剣の巻』解説　・授業の進め方	
第2回	発表の手順	・発表の実例	
第3回	学生発表（１）	・口頭発表と質疑応答	
第4回	学生発表（２）	・口頭発表と質疑応答	
第5回	学生発表（３）	・口頭発表と質疑応答	
第6回	学生発表（４）	・口頭発表と質疑応答	
第7回	学生発表（５）	・口頭発表と質疑応答	
第8回	学生発表（６）	・口頭発表と質疑応答	
第9回	学生発表（７）	・口頭発表と質疑応答	
第10回	学生発表（８）	・口頭発表と質疑応答	
第11回	学生発表（９）	・口頭発表と質疑応答	
第12回	学生発表（１０）	・口頭発表と質疑応答	
第13回	学生発表（１１）	・口頭発表と質疑応答	
第14回	学生発表（１２）	・口頭発表と質疑応答	発表要旨の提出
第15回	まとめ	・完成した釈文全体のチェック	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	特になし
評価方法及び評価基準	・口頭発表、作成資料（50%） ・発表要旨（20%） ・授業への積極的な参加（質疑応答等）（30%）
課題等	口頭発表、作成資料、授業への積極的な参加（質疑応答等）
事前事後学修	事前に資料を読み、事後に発表内容を顧みる
教材教科書参考書	【教科書】右書収録の本文資料を配布します。市古貞次校注『完訳日本の古典45　平家物語（四）』小学館、1987、4-09-556045-2　国会図書館デジタルコレクション（要利用登録）https://dl.ndl.go.jp/pid/12451149
留意点	授業に参加する皆さんが「授業を作る」という意識をもってください。

科目名	近現代文学演習ⅡＡ	科目ナンバリング	L-JSLI4-34.S	単位数時間	2単位	対象学年	4年	開講学期	前期
		科目コード	J54060		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上　諭一	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 参加各人の興味あるテクスト（多くは卒業論文のテーマと関係する）を選び、最近の代表的な論文をそれに併せて批判的に読んで行く。議論の領域は、狭義の「文学」にとどまらず、歴史・社会の総体に及ぶ。発表対象作品は、参加する各人の希望によって決める。また、原則として発表は個人で行なうものとし、グループ発表は行なわない。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	一般的な文学理論（批評理論）を各自の“読み”“解釈”に結びつけて行く、その手順を体得する。最終目標は、新しくて力強く、魅力的な読みにたどり着くことであるが、社会・世界との接点は常に忘れない。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	導入；立場について	基本的な学問的立場の確認、発表順の決定	ディスカッションあり
第2回	予備的な討論	問題意識の洗い出し	ディスカッションあり
第3回	発表第１回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第4回	発表第２回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第5回	発表第３回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第6回	発表第４回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第7回	発表第５回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第8回	中間討論	補足発表と、これまでの議論を踏まえてのやや包括的な討論	ディスカッション45分
第9回	発表第６回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第10回	発表第７回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第11回	発表第８回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第12回	発表第９回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第13回	発表第10回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第14回	発表第11回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッションあり
第15回	まとめ	総括討論	全時間、ディスカッションに当てる

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	発表、ポスター作成	ディベート						

評価方法及び評価基準	発表結果（５０点満点）、質疑応答への参加状況（５０点満点）を総合。発表では、概ね歴史的な整理ができれば65%、対象とするテクストについて自分の意見を述べることができれば75%、他者の見解を参照しつつ自分の意見を客観的に述べることができれば90%以上の得点とする。
課題等	適宜指示する
事前事後学修	対象となる作品については、事前に読了しておく必要がある。（予習2～3時間）また、演習中に発見された問題については、上級学年らしい自学自習が期待される。（事後学修2～10時間）
教材教科書参考書	発表内容により異なるので、事前には指定しない。複数の版型がある場合には、出来る限り安価なテクストを用いる。 参考書は、発表内容に応じて適宜指示する。
留意点	発表や質疑応答において、高い水準が要求される。演習時間中には参加者全員がWi-Fiに接続し、いわば「調べながら討論する」ことを前提とする。発表資料等はできる限り事前にTeamsにアップし、効率良い勉強をするように心がける。

科目名	近現代文学演習ⅡＢ	科目ナンバリング	L-JSLI4-35.S	単位数時間	2単位	対象学年	4年	開講学期	後期
		科目コード	J54061		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上　諭一	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 参加各人の興味あるテクスト（多くは卒業論文のテーマと関係する）を選び、最近の代表的な論文をそれに併せて批判的に読んで行く。議論の領域は、狭義の「文学」にとどまらず、歴史・社会の総体に及ぶ。発表対象作品は、参加する各人の希望によって決める。また、原則として発表は個人で行なうものとし、グループ発表は行なわない。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	一般的な文学理論（批評理論）を各自の“読み”“解釈”に結びつけて行く、その手順を体得する。最終目標は、卒論に結びつくような新しくて力強く、魅力的な読みにたどり着くことである。ただし社会・世界との接点は常に忘れない。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	導入；立場について	基本的な学問的立場の確認、発表順の決定	ディスカッションあり
第2回	予備的な討論	問題意識の洗い出し	ディスカッションあり
第3回	発表第１回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第4回	発表第２回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第5回	発表第３回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第6回	発表第４回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第7回	発表第５回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第8回	中間討論	補足発表と、これまでの議論を踏まえてのやや包括的な討論	ディスカッション45分
第9回	発表第６回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第10回	発表第７回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第11回	発表第８回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第12回	発表第９回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第13回	発表第10回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第14回	発表第11回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッションあり
第15回	まとめ	総括討論	全時間、ディスカッションに当てる

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	発表、ポスター作成	ディベート						

評価方法及び評価基準	発表結果（５０点満点）、質疑応答への参加状況（５０点満点）を総合。発表では、概ね歴史的な整理ができれば65%、対象とするテクストについて自分の意見を述べることができれば75%、他者の見解を参照しつつ自分の意見を客観的に述べることができれば90%以上の得点とする。
課題等	適宜指示する
事前事後学修	対象となる作品については、事前に読了しておく必要がある。（予習2～3時間）また、演習中に発見された問題については、上級学年らしい自学自習が期待される。（事後学修2～10時間）
教材教科書参考書	発表内容により異なるので、事前には指定しない。複数の版型がある場合には、出来る限り安価なテクストを用いる。 参考書は、発表内容に応じて適宜指示する。
留意点	発表や質疑応答において、高い水準が要求される。演習時間中には参加者全員がWi-Fiに接続し、いわば「調べながら討論する」ことを前提とする。発表資料等はできる限り事前にTeamsにアップし、効率良い勉強をするように心がける。

科目名	日本文化概論Ａ	科目ナンバリング	L-JSCL1-00.J	単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
		科目コード	J56001		30時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	井上　諭一	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 特に「大衆文化」に焦点を当て、過去に書かれた有名な「日本論」「日本人論」を対比しながら読んでいく。21世紀における「日本」や「文化」について考える基礎を与える。なお、授業時間90分を45分で前後に分け、中間で質問を受け付けるなど、2部構成で実行する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	俗説に惑わされることなく、学問的に現代の「日本大衆文化」（ポピュラー文化）を捉えられるようになる。もちろん、教科書編者の意見に対しても十分批判できるようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	導入	教科書を批判的に読むという読み方について	ディスカッションあり
第2回	日本大衆文化の原理と美学　１	柳田國男、加藤周一らの論について	ディスカッションあり
第3回	日本大衆文化の原理と美学　２	小林秀雄、吉本隆明らの論について	ディスカッションあり
第4回	運動する大衆	折口信夫、市古貞次らの論について	ディスカッションあり
第5回	動員される大衆	大谷壮一、石子順造らの論について	ディスカッションあり
第6回	群れとしての作者　１	柳田國男、夏目漱石らの論について	ディスカッションあり
第7回	群れとしての作者　２	中井正一の論について	ディスカッションあり
第8回	群れとしての作者　３	大熊信行、片上伸らの論について	ディスカッションあり
第9回	中間討論会	これまでの講義を踏まえて、参加者による、やや包括的な討論を行う。ただし、感染症の流行状況によって変動がありうる。	長めのディスカッション
第10回	同時代の日本大衆化論　１	手塚治虫、加太こうじらの論について	ディスカッションあり
第11回	同時代の日本大衆化論　２	坂口安吾、司馬遼太郎らの論について	ディスカッションあり
第12回	同時代の日本大衆化論　３	江藤淳の論について	ディスカッションあり
第13回	都市空間と民俗文化　１	小松和彦の論について	ディスカッションあり
第14回	都市空間と民俗文化　２	宮田登の論について	ディスカッションあり
第15回	まとめに代えて	現代読者の成立、または集合知のありようについて	ディスカッションあり

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	グループワーク	ディベート	発表、ポスター作成					

評価方法及び評価基準	学期末にレポートを一回課す。（3000字程度） 全体の30%を講義（一部、演習的形式で行なうので、講義時間内にディスカッションの場面がある。ただし、感染症の状況によって変動する）への参加度合いで評価し、レポートの得点を70%として合算する。レポートでは、基本的な知識を修得していれば６０%、他者の見解などにも触れ、自分の独創性な意見が記述できていれば80%、自分自身の見解と他者の意見とを照らし合わせて検討できていれば90%以上の得点とする。
課題等	毎時間、リアクションペーパーを提出する。ペーパー自体は返却しないが、質問などその内容については次の講義時間に触れる。
事前事後学修	教科書の該当部分は常に事前に読んでおく必要がある。（予習2時間以上必要）また、時間の関係上、特にメディアの状況については詳述できない部分があり、事後の自習が必須である。（事後の学修4時間以上必要）
教材教科書参考書	柳田國男他『日本大衆文化論アンソロジー』ISBN-13 : 978-4778317355 参考書として『日本大衆文化史』ISBN-13 : 978-4044005634（参考書は、購入する必要はない）
留意点	講義時間中の質疑応答だけではなく、ネット（Teams）を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。

科目名	日本文化概論Ｂ	科目ナンバリング	L-JSCL1-01.J	単位数 時　間	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
		科目コード	J56002		30時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	小橋　玲治	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）								
評価方法及び評価基準								
課題等								
事前事後学修								
教材教科書参考書								
留意点								

科目名	日本の歴史Ａ	科目ナンバリング	L-JSCL1-02.U	単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
		科目コード	J56003		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	齊藤　利男	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 日本史理解の出発点として、日本列島における原日本人の登場から、縄文・弥生時代、邪馬台国、ヤマト王権をへて、律令国家＝古代「日本国」が誕生するまでの、古代日本の歴史を学びます 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	他の専門科目や２年次以降の専門科目の学習に必要な日本史（原始・古代史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス「書きかえられる古代史」	本授業のねらいと計画および学習方法について、映像教材なども使いながら、解説する	講義形式
第2回	日本列島の誕生と縄文文化	日本列島の誕生と新石器文化＝縄文文化の内容・特徴について学ぶ	講義形式
第3回	縄文時代の開始と東と西の文化圏	東北・東日本で栄えた縄文文化と縄文時代の歴史を学ぶ	講義形式
第4回	弥生時代とはどういう時代か	鉄器農耕文化、文明の第１段階としての「弥生時代」の性格を学ぶ	講義形式
第5回	渡来人と弥生時代の開始	「稲作の伝来」と弥生時代の始まりについて、映像も使いながら学ぶ	講義形式
第6回	弥生社会の発展と「倭国」の誕生　１	研究の発展で書きかえられた弥生時代の歴史を学ぶ	講義形式
第7回	弥生社会の発展と「倭国」の誕生　２	奴国の登場から邪馬台国までの「倭国」の歴史を学ぶ	講義形式
第8回	邪馬台国研究の現在	映像資料や文献資料「魏志倭人伝」全文を使いながら、邪馬台国研究の現在の到達点を学ぶ。ミニレポートはここまでの総括	講義形式
第9回	ヤマト王権と倭王国　１	崇神王朝・応神王朝とヤマト王権の誕生を学ぶ	講義形式
第10回	ヤマト王権と倭王国　２	古墳文化とヤマト王権の発展、および朝鮮半島諸国との軍事同盟について学ぶ	講義形式
第11回	統一国家「日本国」への道	ヤマト王権から律令国家への発展過程を、国内・国際の２つの視点から概括する	講義形式
第12回	冊封体制と日本国	東アジア世界の国際秩序「冊封体制」とそこからの離脱について学ぶ	講義形式
第13回	古代統一国家「日本国」の形成　１	継体王朝の成立から乙巳の変（大化の改新）に至る過程を学ぶ	講義形式
第14回	古代統一国家「日本国」の形成　２	乙巳の変（大化の改新）以後の律令国家成立に至る歴史を学ぶ	講義形式
第15回	古代統一国家「日本国」のシステム	完成した古代律令国家「日本国」の国家システムについて学ぶ	講義形式

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	理解度チェック						

	学生から出された質問に対しては、全員で考える機会として活用し、教師側からの再質問も交えながら双方向的授業を行います。
評価方法及び評価基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×２点＝30点,30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点,70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点,100%）とします。
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。
事前事後学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。また授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて再確認したり、考える機会として下さい。時間はあわせて３時間程度が理想です。
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教科書に代わる教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な質問も含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。

科目名	日本の歴史Ｂ	科目ナンバリング	L-JSCL1-03.U	単位数 時　間	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
		科目コード	J56004		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	齊藤　利男	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 日本史理解の基本テーマとして、幕末・明治維新から、近代国家の成立、日清・日露戦争をへて、「大日本帝国」が成立するまでの近代日本の歴史を学び、さらに、その後の日中戦争から太平洋戦争に至る過程を展望します。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	他の専門科目や２年次以降の専門科目の学習に必要な日本近代史（幕末・明治維新から日清・日露戦争をへて大日本帝国の成立まで）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス―戦前の日本はどんな国だったか	本授業のねらいを、映像教材を使いながら解説します。	講義形式
第2回	開国	ペリー来航と「開国」の実像を学ぶ	講義形式
第3回	近代国家への課題	開国が鎖国日本に与えた衝撃と幕末の激動の始まりについて学ぶ	講義形式
第4回	尊王攘夷と幕末の政治抗争　１	幕末の政治史を学ぶ（１）安政の大獄から尊攘運動の挫折まで	講義形式
第5回	尊王攘夷と幕末の政治抗争　２	幕末の政治史を学ぶ（２）討幕派の誕生から王政復古クーデターまで	講義形式
第6回	戊辰戦争と明治維新	幕末の政治史を学ぶ（３）、ミニレポートはここまでの総括	講義形式
第7回	明治日本の課題	明治維新後の日本が直面した課題について学ぶ	講義形式
第8回	軍事大国路線の選択	明治政府が「軍事大国」路線を選択してゆく過程を学ぶ	講義形式
第9回	日清戦争への道	日清戦争は何のための戦争だったのかを学ぶ	講義形式
第10回	日清戦争圧勝と三国干渉	日清戦争の大勝利がもたらした結果について学ぶ	講義形式
第11回	日清から日露へ	日清戦争後の日本とアジアについて学ぶ、ミニレポートはこの間の総括	講義形式
第12回	日英同盟と日露開戦	日本が超大国ロシアと戦うことになったいきさつを学ぶ	講義形式
第13回	日露戦争、薄氷の勝利	「日露戦争勝利」の内実とポーツマス条約の獲得物について学ぶ	講義形式
第14回	「大日本帝国」の成立	日露戦争勝利で「大日本帝国」が成立したことと、その内容を学ぶ	講義形式
第15回	アジア太平洋戦争への道	「大日本帝国」のその後を学ぶ、ミニレポートは全体の総括	講義形式

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	理解度チェック						

	学生から出された質問に対しては、全員で考える機会として活用し、教師側からの再質問も交えながら双方向的授業を行います。
評価方法及び評価基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×２点＝30点,30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点,70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点,100%）とします。
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。
事前事後学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。また授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて再確認したり、考える機会として下さい。時間はあわせて３時間程度が理想です。
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教科書に代わる教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な質問も含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。

科目名	日本マンガの歴史	科目ナンバリング	L-JSCL1-04.S	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目コード	J56005		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	小橋　玲治	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 現在世界に広がる文化「MANGA」となっている漫画/マンガについて、現代から徐々に時代をさかのぼる形でその歴史を追っていくことで、自分たちに身近なマンガという存在がいかにして現在あるようなものになっていったのか理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	1　現代のマンガに至るまでの大きな流れの理解 2　マンガが様々な影響関係によって成り立っていることの理解 3　「日本のマンガ」が「世界のMANGA」とつながっているということへの理解

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス：現代のマンガのあり方	「スマホ」で「縦スクロール」で読むこと	
第2回	現代のマンガのあり方（2）タイトルが長すぎるなろう原作マンガ	長すぎるタイトルの源流は18世紀イギリスにあり	
第3回	現代のマンガのあり方（3）「まんがタイムきらら」的な4コママンガ	『ぼっち・ざ・ろっく！』から遡る日常系4コママンガの歴史	
第4回	1980～90年代―「漫画」から「マンガ」へ	「漫画の神様」手塚治虫が亡くなるも、日本の漫画総売上が最高に達した時代	
第5回	1970年代（1）「〇〇漫画」という枠組み	「釣り漫画」や「料理漫画」といった特定の枠組みの形式の萌芽を1970年代に見る	
第6回	1970年代（2）少女漫画の革新	「花の24年組」を中心とした女性漫画家たち	
第7回	1960年代―漫画雑誌の創刊、劇画の時代	それぞれ1950年代後期に誕生した少年漫画雑誌や劇画が花開いた1960年代	
第8回	1950年代（2）子どもたちへの文学翻案作品としての漫画	藤子不二雄「少年船長」（1955年）など	
第9回	1950年代（1）手塚治虫とトキワ荘の時代	赤本、貸本という流通経路	
第10回	昭和初期～戦後の漫画	同時代の文化としての漫画	
第11回	大正期の漫画―4コマ漫画からストーリー漫画への萌芽	『正チャンの冒険』など	
第12回	明治期の漫画（1）雑誌篇	海外雑誌をネタ元にした『團團珍聞』	
第13回	明治期の漫画（2）人物編	映画『漫画誕生』（2019年）	
第14回	「漫画」の誕生	現代のマンガ技術のルーツとしての江戸時代	
第15回	世界に広がるMANGA	Manfra：荒木飛呂彦『岸辺露伴 ルーヴルへ行く』 Manfa：日本の雑誌でも活躍する尹仁完、林達永	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	リフレクションシート	理解度チェック						

評価方法及び評価基準	リフレクションシートや理解度チェックを行うことで、毎回の授業に対しての取り組みを評価する（30%）。 授業で取り上げた特定の時期の現象や作品について、自身の見解を交えたレポートを執筆（70%）
課題等	毎回リフレクションシートの提出を課し、質問があれば次回冒頭でフィードバックする。
事前事後学修	マンガそのものというよりも取り上げる時代背景についてあらかじめ調べて知っておく（90分）。取り上げた作品や作家について、授業で取り上げたもの以外も調べておく（90分）。
教材教科書参考書	適宜資料を配布する。
留意点	なし

科目名	日本の映像表現	科目ナンバリング	L-JSCL2-06.S	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目コード	J56007		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上　諭一	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 映像表現全体を取り扱うが、特に重点を置くのは日本映画の歴史である。日本における映画産業の成立と発展、また日本アニメ（ジャパニメーション）の歴史について概説する。テレビドラマについても触れる。できる限り、実際の表現に触れることができるように取り計らう。なお、授業時間90分を45分で前後に分け、中間で質問を受け付けるなど、2部構成で実行する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	映像技術の発達史を理解し、それをベースに各時代・各ジャンルの代表作品について、広範な知識を得て他者に説明できるようになる。またそれを踏まえて、自らクリエイティブな感性を発揮できるようになる。遠い目標として、製作者の側に回ることも考えておく。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	導入	映像の世紀について、また「日本映画」の成立について	ディスカッションあり
第2回	映画の基礎技術	写真、（レンズ、フィルム）、音響について	ディスカッションあり
第3回	映画1	創成期	ディスカッションあり
第4回	映画2	第二次世界大戦終了まで；初期の小津安二郎、溝口健二、時代劇	ディスカッションあり
第5回	映画3	1960年代まで；黒澤明、木下恵介、日活、ATG、任侠映画	ディスカッションあり
第6回	映画4	1980年代まで；市川崑、大島渚、深作欣二	ディスカッションあり
第7回	映画5	20世紀末まで；鈴木清順、相米慎二、森田芳光	ディスカッションあり
第8回	映画6	21世紀；是枝裕和、周防正行、北野武、Jホラー	ディスカッションあり
第9回	テレビ1	1980年代まで；創世記のテレビドラマ	ディスカッションあり
第10回	テレビ2	1990年代～；黄金時代から衰退期のテレビドラマ	ディスカッションあり
第11回	テレビ３	バラエティ番組の興亡	ディスカッションあり
第12回	アニメ1；1970年代まで	創世期の日本アニメ、「太陽の王子ホルスの大冒険」「宇宙戦艦ヤマト」「機動戦士ガンダム」など	ディスカッションあり
第13回	アニメ2；1980年代まで	「風の谷のナウシカ」「北斗の拳」「聖闘士星矢」『AKIRA』など	ディスカッションあり
第14回	アニメ3；1990年代以降	「SLAM DUNK」「美少女戦士セーラームーン」「新世紀エヴァンゲリオン」「攻殻機動隊」など	ディスカッションあり
第15回	まとめ	「鬼滅の刃」「SPY×FAMILY」など；映像表現における、日本独自のものとは何か？	オンライン・オンデマンド

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	グループワーク	発表、ポスター作成						

評価方法及び評価基準	学期末にレポートを一回課す。（3000字程度） 講義時間内にディスカッションの場面がある。写真撮影・ビデオ撮影の教室内実習も行う。（感染症の流行状況によって変動）レポートの得点を70%、演習的部分への参加度合いを30%として合算する。レポートでは、基本的な知識を修得していれば60%、自分の独創性な意見が記述できていれば80%、自分自身の見解と他者の意見とを照らし合わせて検討できていれば90%以上の得点とする。
課題等	毎時間、リアクションペーパーを提出する。ペーパー自体は返却しないが、質問などその内容については次の講義時間に触れる。
事前事後学修	講義時間内に映画を一本見ることはできないので、参加各人の予習復習が特に大切である。原則として、対象となる作品は事前に見ておくこと。（予習2時間以上）また、作品に関連する事項の学修には、通常、講義後に4～5時間を要する。
教材教科書参考書	四方田犬彦「日本映画史110年」ISBN-13: 978-4087207521　　プリントとスライドを併用。
留意点	講義時間中の質疑応答だけではなく、ネット（Teams）を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。

科目名	日本のサブカルチャー	科目ナンバリング	L-JSCL2-07.S	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目コード	J56008		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	鎌田　学	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 "Cool Japan"と言われて久しい日本の文化（産業）について理解を深める。文化研究の一例として、鶴見俊輔の「限界芸術論」を取り上げる。そのほかにダンス、演劇、漫画、アニメ、ゲーム、アイドル、ファッションなど広範な領域の大衆文化、あるいはサブカルチャーについて、参加者が独自にケーススタディを展開し個人発表を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	各自独自の視点から、広義の「日本の文化、サブカルチャー」について調べ、発表できるようになること。また、戦後から今日までの日本文化のあり方を、諸外国との関連・関係において捉えられるようになること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	授業の目的と方法について	
第2回	文化研究	「限界芸術論」を読む	
第3回	文化研究②	「限界芸術論」を読む②	
第4回	文化研究③	「限界芸術論」を読む③	
第5回	戦後日本サブカルチャー史	80年代を映像で概観する	
第6回	戦後日本サブカルチャー史②	90年代を映像で概観する	
第7回	戦後日本サブカルチャー史③	00年代を映像で概観する	
第8回	個人発表	質疑応答	
第9回	個人発表②	質疑応答	
第10回	個人発表③	質疑応答	
第11回	個人発表④	質疑応答	
第12回	個人発表⑤	質疑応答	
第13回	個人発表⑥	質疑応答	
第14回	個人発表⑦	質疑応答	
第15回	まとめ	授業のまとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	発表、ポスター作成	リフレクションシート					

評価方法及び評価基準	授業への参加度（50%）、個人発表(50%)。後者の評価は、内容、論理的構成、表現力の観点によって行う。
課題等	文献コピーを予め熟読する、発表のスライドを作成する等。
事前事後学修	予習に3時間程度必要。また、発表のための材料集めを不断に行うこと。
教材教科書参考書	コピーにて配布。
留意点	学科問わず、国際文化交流に関心のある人はぜひ参加されたい。

科目名	日本の民俗芸能	科目ナンバリング	L-JSCL2-08.S	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目コード	J56009		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	下田　雄次	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 日本の代表的な民俗芸能を取り上げて、その特質や地域性を考える。併せて本学の立地地域である青森県及び近隣県の民俗芸能についても理解を深める。映像資料を用いて、その実態を理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	日本の民俗芸能の基礎的事項について説明することができる。 民俗芸能を通して、日本の伝統文化の特質を説明することができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	授業内容についてガイダンスする。また、レポートと感想文の説明をする。	講義形式
第2回	日本の民俗芸能の特質と系統①	日本の民俗芸能の特質や系統について講義を行う。 映像資料を参照しながら講義を進める。	講義形式
第3回	日本の民俗芸能の特質と系統② 北東北の民俗芸能の概要	日本の民俗芸能の特質や系統について講義を行う。併せて、北東北の民俗芸能についても言及する。 映像資料を参照しながら講義を進める。	講義形式
第4回	獅子舞・獅子踊り （一人立ち・二人立ち）	「獅子踊り・獅子舞」に関して歴史を踏まえながら講義を行う。あわせて地域的特性について言及する。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと（実見や映像の視聴ができれば尚良い）。	講義形式
第5回	神楽系統の芸能　湯立て神楽	「湯立て神楽」に関して、歴史を踏まえながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと（実見や映像の視聴ができれば尚良い）。	講義形式
第6回	神楽系統の芸能　山伏神楽	「山伏神楽」に関して、歴史を踏まえながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと（実見や映像の視聴ができれば尚良い）。	講義形式
第7回	田楽系統の芸能　田楽　田植神事	「田楽」や「田植神事」に関して、歴史を踏まえながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと（実見や映像の視聴ができれば尚良い）。	講義形式
第8回	風流系統の芸能・祭り やすらい花　祇園祭り	京都の「やすらい花」や「祇園祭」に関して、歴史を踏まえながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと（実見や映像の視聴ができれば尚良い）。	講義形式
第9回	外来系統の芸能 祝福芸系統の芸能	外来系統の芸能や祝福芸系統の芸能に関して、歴史を踏まえながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと（実見や映像の視聴ができれば尚良い）。	講義形式
第10回	青森県内の芸能・祭り①	青森県内津軽地方の芸能・祭りに関して、これまで学んだ芸能の特質に関する事項を振り返りながら講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと（実見や映像の視聴ができれば尚良い）。	講義形式
第11回	青森県内の芸能・祭り②	青森県内下北地方・南部地方の芸能・祭りに関して、これまで学んだ芸能の特質に関する事項を振り返りながら、講義を行う。事前に授業で学ぶ芸能について調べておくこと。	講義形式
第12回	芸能の身体と音楽①	日本の無形文化である民俗芸能の基本的な身体技法や音楽について歴史を踏まえながら講義を行う。あわせて、芸能の身体技法や音楽の体験的な学習も行う。日本音楽の特質についても学ぶ。	講義形式
第13回	芸能の身体と音楽② レポート提出期限	日本の無形文化である民俗芸能の基本的な身体技法や音楽について歴史を踏まえながら講義を行う。あわせて、芸能の身体技法や音楽の体験的な学習も行う。	講義形式
第14回	ネプタ・ネブタ行事について考える	ネプタ・ネブタについてディスカッションを行う。テーマを提示し、議論を展開する。テーマについては祭りの現場で発生してきた問題を当事者・外部者という両極の視点に立脚しながら議論を行う。	ディスカッション
第15回	まとめと小テスト 感想文提出期限	問題を解きながら、これまでの授業内容を確認する。	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	発表、ポスター作成						

評価方法及び評価基準	レポート50%、「山車展示館」の感想文20%、小テスト30%。さらにリアクションペーパー（任意）も評価対象とする。レポートは地域の芸能についての理解度で評価する。実際に伝承者の方々を訪ねて聞き書きができれば尚良い。時数は1600～2000字程度とする。「山車展示館」の感想文は、300字程度とする。小テストでは、授業内容をまとめるとともに問題点を一つ設定し、それについて自分なりの考えを述べることができたかを問う。
課題等	レポートと感想文
事前事後学修	毎回、事前・事後の学習時間は、90分ずつとする。
教材教科書参考書	テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。
留意点	毎回リアクションペーパーを提出してもらい、相互理解・コミュニケーションを深めたい。

科目名	中国文学概論 （中国文学史を含む）	科目ナンバリング	L-JSCL1-20.J	単位数 時　間	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
		科目コード	J56010		30時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	出口　誠	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 漢詩を中心に中国文学史を概観し、漢詩文に関する基本的な知識の習得を目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	中国文学に関する基本的な知識を習得する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	授業内容の説明	
第2回	漢文訓読概説	漢文法、漢文訓読の説明	
第3回	先秦の詩1	『詩経』の性格と「毛詩大序」	
第4回	先秦の詩2	『詩経』の詩を学ぶ	
第5回	漢代の詩1	古詩十九首を学ぶ	
第6回	漢代の詩2	楽府詩を学ぶ（漢代）	
第7回	六朝時代の詩1	楽府詩を学ぶ（六朝時代）	
第8回	六朝時代の詩2	建安文学を学ぶ	
第9回	六朝時代の詩3	陶潜の詩を学ぶ	
第10回	唐代の詩1	唐詩を学ぶ１	
第11回	唐代の詩2	唐詩を学ぶ２	
第12回	唐代の詩3	唐詩を学ぶ３	
第13回	小説1	志怪小説を学ぶ	
第14回	小説2	伝奇小説を学ぶ	
第15回	理解度の確認、まとめ	授業内容についてのテスト、授業のまとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	リフレクションシート	理解度チェック						

評価方法及び評価基準	リフレクションシート：30%、課題：20%、理解度の確認（テスト）：50% ６回以上欠席した場合は単位を与えない
課題等	授業内でリフレクションシートに応答する
事前事後学修	予習（合計30時間）：毎回の講義の前に、図書館等で当該部分を予習する。 復習（合計30時間）：毎回の講義の後に、配付資料を復習する。
教材教科書参考書	教科書：『句形演習　新・漢文の基本ノート』（日栄社、978-4-8168-0680-3） その他プリントを配布する
留意点	特になし

科目名	中国文学講読Ａ	科目ナンバリング	L-JSCL2-21.UJ	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目コード	J55002		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	出口　誠	授業形態	講義	単独
	教員免許	選択必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 白居易の漢詩を旧鈔本に基づいて精読し、中国文学に対する理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	訓点に基づいて漢詩文を読み下すことができる。また、白居易の漢詩文を十分に理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	授業内容、成績評価等の説明	
第2回	訓点概説	訓点および訓読の説明	
第3回	「長恨歌」を読む１	「長恨歌」１句～	
第4回	「長恨歌」を読む２	「長恨歌」１１句～	
第5回	「長恨歌」を読む３	「長恨歌」２１句～	
第6回	「長恨歌」を読む４	「長恨歌」３１句～	
第7回	「長恨歌」を読む５	「長恨歌」４１句～	
第8回	「長恨歌」を読む６	「長恨歌」５１句～	
第9回	「長恨歌」を読む７	「長恨歌」６１句～	
第10回	「長恨歌」を読む８	「長恨歌」７１句～	
第11回	「長恨歌」を読む９	「長恨歌」８１句～	
第12回	「長恨歌」を読む１０	「長恨歌」９１句～	
第13回	「長恨歌」を読む１１	「長恨歌」１０１句～	
第14回	「長恨歌」を読む１２	「長恨歌」１１１句～	
第15回	理解度の確認、まとめ	授業内容についてのテスト、授業のまとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	資料記入	理解度チェック						

評価方法及び評価基準	理解度の確認（テスト）：60%、授業への参加度：40% ６回以上欠席した場合は単位を与えない
課題等	授業内で順に訓読し、その場で指導する
事前事後学修	予習（合計30時間）：授業範囲の訓読・句意を予習する。 復習（合計30時間）：訓読・句意を中心に授業内容を復習する。
教材教科書参考書	プリントを配布する
留意点	受講生の数に応じて、授業の進行を変更することがある。

科目名	中国文学講読Ｂ	科目ナンバリング	L-JSCL2-22.UJ	単位数時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目コード	J55003		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	出口　誠	授業形態	講義	単独
	教員免許	選択必修					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 『白氏文集』旧鈔本の精読を通して、日本における中国文学の受容にありかたに対する理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの8に関連し、カリキュラムポリシーの8に関連している。
到達目標	旧鈔本の訓点をもとに、平安・鎌倉期の漢詩文享受の実態を理解できる。また、白居易の漢詩文を十分に理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	授業内容、成績評価等の説明	
第2回	白居易概説	白居易についての説明	
第3回	新楽府を読む１	「上陽白髪人」１	
第4回	新楽府を読む２	「上陽白髪人」２	
第5回	新楽府を読む３	「上陽白髪人」３	
第6回	新楽府を読む４	「新豊折臂翁」１	
第7回	新楽府を読む５	「新豊折臂翁」２	
第8回	新楽府を読む６	「新豊折臂翁」３	
第9回	新楽府を読む７	「売炭翁」１	
第10回	新楽府を読む８	「売炭翁」２	
第11回	新楽府を読む９	「売炭翁」３	
第12回	新楽府を読む１０	「李夫人」１	
第13回	新楽府を読む１１	「李夫人」２	
第14回	新楽府を読む１２	「李夫人」３	
第15回	理解度の確認、まとめ	授業内容についてのテスト、授業のまとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	資料記入	理解度チェック						

評価方法及び評価基準	理解度の確認（テスト）：60%、授業への参加度：40% ６回以上欠席した場合は単位を与えない
課題等	授業内で順に訓読し、その場で指導する
事前事後学修	予習（合計30時間）：授業範囲の訓読・句意を予習する。 復習（合計30時間）：訓読・句意を中心に授業内容を復習する。
教材教科書参考書	プリントを配布する
留意点	中国文学講読Ａを受講していることが望ましい。受講生の数に応じて、授業の進行を変更することがある。

科目名	日本文化演習ＩＡ	科目ナンバリング	L-JSCL3-30.S	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
		科目コード	J56011		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	小橋　玲治	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 弘前出身の作家、石坂洋次郎の作品「若い人」（1933-37）を講読していく。また、映像化されたものもいくつか鑑賞し、メディアミックスについても検討していく。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	１　ご当地作家である石坂洋次郎についての理解を深める。 ２　石坂洋次郎作品を通して作品解釈の方法について学ぶ。 ３　初出で読むことで、作品発表当時の環境への理解を深める。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	石坂洋次郎について	
第2回	近年の石坂洋次郎研究	柏倉康夫『石坂洋次郎「若い人」を読む―妖しの娘・江波恵子』（吉田書店、2012年）、三浦雅士『石坂洋次郎の逆襲』（講談社、2020年）	
第3回	「若い人」が掲載された『三田文学』	掲載誌である『三田文学』について	
第4回	初出で読む「若い人」１	作品講読及びディスカッション	
第5回	初出で読む「若い人」２	作品講読及びディスカッション	
第6回	初出で読む「若い人」３	作品講読及びディスカッション	
第7回	初出で読む「若い人」４	作品講読及びディスカッション	
第8回	「若い人」の映像化（１）映画「若い人」（1962年）	作品鑑賞	
第9回	初出で読む「若い人」５	作品講読及びディスカッション	
第10回	初出で読む「若い人」６	作品講読及びディスカッション	
第11回	初出で読む「若い人」７	作品講読及びディスカッション	
第12回	初出で読む「若い人」８	作品講読及びディスカッション	
第13回	「若い人」の映像化（２）テレビドラマ「若い人」（1986年）	作品鑑賞	
第14回	初出で読む「若い人」９	作品講読及びディスカッション	
第15回	まとめ	まとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	誘導ディスカッション							

評価方法及び評価基準	積極的なディスカッションへの参加（30%） 期末レポート（70%）
課題等	適宜指示する。
事前事後学修	その回で扱う範囲をあらかじめ読んで演習に臨む。また、分からない語句や表現等は調べておく。そのために週3時間の授業外学習時間が必要である。
教材教科書参考書	適宜資料を配布する。
留意点	映画鑑賞が授業時間内に終わらない場合、希望者は研究室で見られなかった部分の鑑賞が可能。

科目名	日本文化演習ＩＢ	科目ナンバリング	L-JSCL3-31.S	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	後期
		科目コード	J56012		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	小橋　玲治	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 弘前出身の作家、石坂洋次郎の作品「陽のあたる坂道」（1956-57）を講読していく。また、映像化されたものもいくつか鑑賞し、メディアミックスについても検討していく。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	１　ご当地作家である石坂洋次郎についての理解を深める。 ２　石坂洋次郎作品を通して作品解釈の方法について学ぶ。 ３　初出で読むことで、作品発表当時の環境への理解を深める。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	初出で読む「陽のあたる坂道」１	作品講読及びディスカッション	
第2回	初出で読む「陽のあたる坂道」２	作品講読及びディスカッション	
第3回	初出で読む「陽のあたる坂道」３	作品講読及びディスカッション	
第4回	初出で読む「陽のあたる坂道」４	作品講読及びディスカッション	
第5回	「陽のあたる坂道」の映像化―渡哲也主演版（1967年）	作品鑑賞	
第6回	初出で読む「陽のあたる坂道」５	作品講読及びディスカッション	
第7回	初出で読む「陽のあたる坂道」６	作品講読及びディスカッション	
第8回	初出で読む「陽のあたる坂道」７	作品講読及びディスカッション	
第9回	初出で読む「陽のあたる坂道」８	作品講読及びディスカッション	
第10回	「陽のあたる坂道」の翻案作品―宝塚ミュージカル作品「丘の上のジョニー」（1978年）	映像がないため、収集可能な限りの作品資料から検討する。	
第11回	初出で読む「陽のあたる坂道」９	作品講読及びディスカッション	
第12回	初出で読む「陽のあたる坂道」１０	作品講読及びディスカッション	
第13回	初出で読む「陽のあたる坂道」１１	作品講読及びディスカッション	
第14回	初出で読む「陽のあたる坂道」１２	作品講読及びディスカッション	
第15回	まとめ	まとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	誘導ディスカッション							

評価方法及び評価基準	積極的なディスカッションへの参加（30%） 期末レポート（70%）
課題等	適宜指示する。
事前事後学修	その回で扱う範囲をあらかじめ読んで演習に臨む。また、分からない語句や表現等は調べておく。そのために週3時間の授業外学習時間が必要である。
教材教科書参考書	適宜資料を配布する。
留意点	映画鑑賞が授業時間内に終わらない場合、希望者は研究室で見られなかった部分の鑑賞が可能。

科目名	日本文化研究Ａ	科目ナンバリング	L-JSCL3-10.U	単位数時間	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
		科目コード	J56021		30時間				

区分	専門教育科目	選択	担当者名	鎌田　学	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 和辻哲郎『風土―人間学的考察』を読む。数多ある比較文化論、日本文化論のなかで、現在でも紐解く価値ある著作の一つ。「風土」を考え直すきっかけとしたい。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	文章を正確に読み込んで、自分なりに解釈できるようになること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	授業の進め方	
第2回	第一章　風土の基礎理論	講読、問題提起	
第3回	第一章　風土の基礎理論②	講読、問題提起	
第4回	第二章　三つの類型	講読、問題提起	
第5回	第二章　三つの類型②	講読、問題提起	
第6回	第二章　三つの類型③	講読、問題提起	
第7回	第三章　モンスーン的風土の特殊形態	講読、問題提起	
第8回	第三章　モンスーン的風土の特殊形態②	講読、問題提起	
第9回	第三章　モンスーン的風土の特殊形態③	講読、問題提起	
第10回	第四章　芸術の風土的性格	講読、問題提起	
第11回	第四章　芸術の風土的性格②	講読、問題提起	
第12回	第五章　風土学の歴史的考察	講読、問題提起	
第13回	第五章　風土学の歴史的考察②	講読、問題提起	
第14回	第五章　風土学の歴史的考察③	講読、問題提起	
第15回	まとめ	授業全体のまとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ＰＢＬ（問題解決型学習）	発表、ポスター作成						

評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。
課題等	事前に予定範囲を必ず読んでおくこと。
事前事後学修	予習に3時間程度必要。
教材教科書参考書	和辻哲郎『風土―人間学的考察』（岩波文庫1210円、ISBN978-4003314425）
留意点	初回時に必ず教科書持参。

科目名	日本文化演習ⅡＡ(a)	科目ナンバリング	L-JSCL4-40.S	単位数時間	2単位	対象学年	4年	開講学期	前期
		科目コード	J56013		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上　諭一	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 参加各人の興味あるテクスト（多くは卒業論文と関係する）を選び、最近の代表的な論文をそれに併せて批判的に読んで行く。議論の領域は、狭義の「文化」」にとどまらない。発表対象作品は、参加する各人の希望によって決める。また、原則として発表は個人で行なうものとし、グループ発表は行なわない。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	一般的な文学理論（批評理論）を各自の“読み”“解釈”に結びつけて行く、その手順を体得する。最終目標は、新しくて力強く、魅力的な読みにたどり着くことであるが、社会・世界との接点は常に忘れない。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	導入；立場について	基本的な学問的立場の確認、発表順の決定	ディスカッションあり
第2回	予備的な討論	問題意識の洗い出し	ディスカッションあり
第3回	発表第１回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第4回	発表第２回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第5回	発表第３回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第6回	発表第４回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第7回	発表第５回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第8回	中間討論	補足発表と、これまでの議論を踏まえてのやや包括的な討論	ディスカッション45分
第9回	発表第６回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第10回	発表第７回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第11回	発表第８回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第12回	発表第９回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第13回	発表第10回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第14回	発表第11回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッションあり
第15回	まとめ	総括討論	全時間、ディスカッションに当てる

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ディベート	発表、ポスター作成						

評価方法及び評価基準	発表結果（５０点満点）、質疑応答への参加状況（５０点満点）を総合。発表では、概ね歴史的な整理ができれば65%、対象とするテクストについて自分の意見を述べることができれば75%、テクストと文化の両方について、他者の見解を参照しつつ自分の意見を客観的に述べることができれば90%以上の得点とする。
課題等	適宜指示する
事前事後学修	対象となる作品については、事前に読了しておく必要がある。（予習2～3時間）また、演習中に発見された問題については、上級学年らしい自学自習が期待される。（事後学修2～10時間）
教材教科書参考書	発表内容により異なるので、事前には指定しない。複数の版型がある場合には、出来る限り安価なテクストを用いる。 参考書は、発表内容に応じて適宜指示する。
留意点	発表や質疑応答において、高い水準が要求される。演習時間中には参加者全員がWi-Fiに接続し、いわば「調べながら討論する」ことを前提とする。発表資料等はできる限り事前にTeamsにアップし、効率良い勉強をするように心がける。

科目名	日本文化演習ⅡＡ(b)	科目ナンバリング	L-JSCL4-40.S	単位数時間	2単位	対象学年	4年	開講学期	前期
		科目コード	J56015		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	小橋　玲治	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 学生各人が選んだテクスト（大部分は卒業論文に直結する）に基づき、先行研究と併せて批判的に解釈するという手法を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	１　先行研究と自身の見解との差別化を図れるようになる。 ２　１を踏まえた上で、自身の見解が独自性のあるものとなっている。 ３　客観的な根拠を伴った、一定分量の文章として提示することができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	発表者の順番決定	
第2回	教員による事例提示１	教員自らまず範を示す。	
第3回	教員による事例提示２	教員自らまず範を示す。	
第4回	学生による発表１	担当学生による発表及びディスカッション	
第5回	学生による発表２	担当学生による発表及びディスカッション	
第6回	学生による発表３	担当学生による発表及びディスカッション	
第7回	学生による発表４	担当学生による発表及びディスカッション	
第8回	学生による発表５	担当学生による発表及びディスカッション	
第9回	学生による発表６	担当学生による発表及びディスカッション	
第10回	学生による発表７	担当学生による発表及びディスカッション	
第11回	学生による発表８	担当学生による発表及びディスカッション	
第12回	学生による発表９	担当学生による発表及びディスカッション	
第13回	学生による発表１０	担当学生による発表及びディスカッション	
第14回	学生による発表１１	担当学生による発表及びディスカッション	
第15回	まとめ	まとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	誘導ディスカッション	発表、ポスター作成						

評価方法及び評価基準	担当した発表及びそのレジュメ（70%） 自分の発表以外での積極的なデスカッションへの参加（30%）
課題等	適宜指示する。
事前事後学修	自分の発表以外の回でも取り上げる論文等を事前に読んでおく。また、その論文の元になっている作品も読んでおき、授業内での発言に備える。そのために週3時間の授業外学習時間が必要である。
教材教科書参考書	適宜資料を配布する。
留意点	参加人数によっては授業計画や方法を変更する場合がある。また、正当な理由なく６回以上欠席した場合、たとえ発表していたとしても単位を認定しない。

科目名	日本文化演習ⅡＢ(a)	科目ナンバリング	L-JSCL4-41.S	単位数時間	2単位	対象学年	4年	開講学期	後期
		科目コード	J56014		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	井上　諭一	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 基本的には前期のⅡAと同じで、参加各人の興味あるテクストを選び、代表的な論文をそれに併せて読んで行く。最大のポイントは、議論の領域が狭義の“文化”にとどまらないことである。発表対象作品は、参加する各人の希望によって決める。また、原則として発表は個人で行なうものとし、グループ発表は行なわない。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	文学理論（批評理論）を各自の“読み”に結びつけて議論して行き、最終的には現代文化の全体像とみずからの考え方について、決定的な手がかりを得る。特に、戦争・人工知能など、現実の身体・世界と学問との結びつきを捉えることができるようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	導入；この演習の依って立つ場所について	基本的な学問的立場の確認、発表順の決定	ディスカッションあり
第2回	予備的な討論	問題意識の洗い出し	ディスカッションあり
第3回	発表第１回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第4回	発表第２回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第5回	発表第３回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第6回	発表第４回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第7回	発表第５回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第8回	中間討論	補足発表と、これまでの議論を踏まえてのやや包括的な討論	ディスカッション45分
第9回	発表第６回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第10回	発表第７回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第11回	発表第８回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第12回	発表第９回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第13回	発表第10回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッション45分
第14回	発表第11回	学生による発表、質疑応答。予習必要。	ディスカッションあり
第15回	まとめ	総括討論	全時間、ディスカッションに当てる

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ディベート	発表、ポスター作成						

評価方法及び評価基準	発表結果（５０点満点）、質疑応答への参加状況（５０点満点）を総合。発表では、概ね歴史的な整理ができれば65%、対象とするテクストについて自分の意見を述べることができれば75%、テクストと文化の両方について、他者の見解を参照しつつ自分の意見を客観的に述べることができれば90%以上の得点とする。
課題等	適宜指示する
事前事後学修	対象となる作品については、事前に読了しておく必要がある。（予習2～3時間）また、演習中に発見された問題については、上級学年らしい自学自習が期待される。（事後学修2～10時間）
教材教科書参考書	発表内容により異なるので、事前には指定しない。複数の版型がある場合には、出来る限り安価なテクストを用いる。 参考書は、発表内容に応じて適宜指示する。
留意点	発表や質疑応答において、高い水準が要求される。演習時間中には参加者全員がWi-Fiに接続し、いわば「調べながら討論する」ことを前提とする。発表資料等はできる限り事前にTeamsにアップし、効率良い勉強をするように心がける。

科目名	日本文化演習ⅡＢ(b)	科目ナンバリング	L-JSCL4-41.S	単位数時間	2単位	対象学年	4年	開講学期	後期
		科目コード	J56016		30時間				

区分	専門教育科目	選択必修	担当者名	小橋　玲治	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 学生各人が選んだテクスト（大部分は卒業論文に直結する）に基づき、先行研究と併せて批判的に解釈するという手法を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5・9・10に関連し、カリキュラムポリシーの5・9・10に関連している。
到達目標	１　先行研究と自身の見解との差別化を図れるようになる。 ２　１を踏まえた上で、自身の見解が独自性のあるものとなっている。 ３　客観的な根拠を伴った、一定分量の文章として提示することができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	発表者の順番決定	
第2回	教員による事例提示１	教員自らまず範を示す。	
第3回	教員による事例提示２	教員自らまず範を示す。	
第4回	学生による発表１	担当学生による発表及びディスカッション	
第5回	学生による発表２	担当学生による発表及びディスカッション	
第6回	学生による発表３	担当学生による発表及びディスカッション	
第7回	学生による発表４	担当学生による発表及びディスカッション	
第8回	学生による発表５	担当学生による発表及びディスカッション	
第9回	学生による発表６	担当学生による発表及びディスカッション	
第10回	学生による発表７	担当学生による発表及びディスカッション	
第11回	学生による発表８	担当学生による発表及びディスカッション	
第12回	学生による発表９	担当学生による発表及びディスカッション	
第13回	学生による発表１０	担当学生による発表及びディスカッション	
第14回	学生による発表１１	担当学生による発表及びディスカッション	
第15回	まとめ	まとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	誘導ディスカッション	発表、ポスター作成						

評価方法及び評価基準	担当した発表及びそのレジュメ（70%） 自分の発表以外での積極的なデスカッションへの参加（30%）
課題等	適宜指示する。
事前事後学修	自分の発表以外の回でも取り上げる論文等を事前に読んでおく。また、その論文の元になっている作品も読んでおき、授業内での発言に備える。そのために週3時間の授業外学習時間が必要である。
教材教科書参考書	適宜資料を配布する。
留意点	参加人数によっては授業計画や方法を変更する場合がある。また、正当な理由なく６回以上欠席した場合、たとえ発表していたとしても単位を認定しない。

科目名	卒業論文	科目ナンバリング	L-JSTH4-00.J	単位数 時　間	4単位	対象学年	4年	開講学期	通年
		科目コード	J41414		60時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	伊藤　慎吾	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 卒業論文の作成を通して、問題を解決するための考察力や情報収集・分析の能力を身に付けていってもらいます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの9・10に関連し、カリキュラムポリシーの9・10に関連している。
到達目標	・学術的な文章を書くことができる。 ・調べ、考える力を身に付けることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	関心の所在の確認	自分の関心点について説明する。		第16回	中間報告	これまでの進捗状況を報告する。	
第2回	論文の分析（１）	論文を読み、構成を把握する。		第17回	本論の構成（３）	論文の構成を確定します。	
第3回	論文の分析（２）	論文を読み、構成を把握する。		第18回	進捗状況の確認（１）	問題点の把握。	
第4回	論文の分析（３）	論文を要約する。		第19回	進捗状況の確認（２）	問題点の把握。	
第5回	題材（１）	取り上げる題材について説明する。		第20回	進捗状況の確認（３）	問題点の把握。	
第6回	題材（２）	取り上げる題材について説明する。		第21回	進捗状況の確認（４）	問題点の把握。	
第7回	関連文献のリスト（１）	これまでどのような研究が行われてきたか報告する。		第22回	口頭発表（１）	論文の内容報告。	
第8回	関連文献のリスト（２）	これまでどのような研究が行われてきたか報告する。		第23回	口頭発表（２）	論文の内容報告。	
第9回	テーマ（１）	題材のどういったことを考察するつもりか説明する。		第24回	執筆状況の確認（１）	問題点の把握。	
第10回	テーマ（２）	題材のどういったことを考察するつもりか説明する。		第25回	執筆状況の確認（２）	問題点の把握。	
第11回	論点（１）	どこに焦点を当てるのか説明する。		第26回	執筆状況の確認（３）	問題点の把握。	
第12回	論点（２）	どこに焦点を当てるのか説明する。		第27回	執筆状況の確認（４）	問題点の把握。	
第13回	関連文献の整理	関連資料及び先行研究を整理分類して提示する。		第28回	執筆状況の確認（５）	問題点の把握。	
第14回	本論の構成（１）	論文の構成を構想する。		第29回	校正作業	完成原稿の本文チェック	
第15回	本論の構成（２）	論文の構成を構想し、パラグラフを作成する。		第30回	提出物の確認	最終チェック	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	特になし
評価方法及び評価基準	・完成した論文（70%） ・平常点（30%）　プレゼン、資料収集や分析作業など
課題等	プレゼン、資料収集や分析作業など各回の課題
事前事後学修	各回の事前に準備が、事後には問題点を確認し、早めに解決する努力が必要
教材教科書参考書	【参考書】随時紹介。
留意点	履修生が一堂に会することのできる時間を設けます。

科目名	卒業論文	科目ナンバリング	L-JSTH4-00.J	単位数時間	4単位	対象学年	4年	開講学期	通年
		科目コード	J41410		60時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	井上　諭一	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 自分自身の意志により問題を発見し、考え、解決していく。具体的には概ね毎週１回の指導を受け、前期中は主に調査を、後期には執筆を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの9・10に関連し、カリキュラムポリシーの9・10に関連している。
到達目標	研究上の倫理を守って研究を進める手順を体得し、論文を完成させることができる。狭い視野に陥らず、時代と文化、自分の立ち位置を見極めることができるようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	導入	先行研究1	ディスカッションあり	第16回	成果1	夏期の成果発表	ディスカッションあり
第2回	構想1	研究範囲の絞り込み方	ディスカッションあり	第17回	構想4	構想の修正	ディスカッションあり
第3回	先行研究1	参考文献リストの作り方1	ディスカッションあり	第18回	構想5	構想提出（章立て）	ディスカッションあり
第4回	先行研究2	参考文献リストの作り方2	ディスカッションあり	第19回	執筆1	草稿の検討1	ディスカッションあり
第5回	先行研究3	参考文献の集め方と読み方	ディスカッションあり	第20回	執筆2	草稿の検討2	ディスカッションあり
第6回	読破のための技術1	基礎的理論	ディスカッションあり	第21回	執筆3	草稿の検討3	ディスカッションあり
第7回	読破のための技術2	物語論	ディスカッションあり	第22回	執筆4	草稿の検討4	ディスカッションあり
第8回	読破のための技術3	読者論	ディスカッションあり	第23回	執筆5	完成原稿点検	ディスカッションあり
第9回	読破のための技術4	脱構築	ディスカッションあり	第24回	提出	印刷製本上の注意など	ディスカッションあり
第10回	読破のための技術5	間テクスト	ディスカッションあり	第25回	提出後指導1	口頭試問へ向けて1	ディスカッションあり
第11回	読破のための技術6	文化批評	ディスカッションあり	第26回	提出後指導2	口頭試問へ向けて2	ディスカッションあり
第12回	先行研究4	リスト点検	ディスカッションあり	第27回	発表	卒論発表会指導	ディスカッションあり
第13回	構想2	初期構想；倫理的な検討を含む	ディスカッションあり	第28回	事後指導	卒業後の研究について	ディスカッションあり
第14回	先行研究5	参考文献の確認	ディスカッションあり	第29回	将来	将来目標の洗い出し	ディスカッションあり
第15回	構想3	夏期休業中の取り組み	ディスカッションあり	第30回	すべてを振り返って	全体反省会	全時間ディスカッション

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	発表、ポスター作成	ディベート						

評価方法及び評価基準	完成した論文に対する評価（８０点満点）、口頭試問の結果（２０点満点）を総合する。原則として、卒論発表会での発表を義務付ける。（コロナの状況によって変動）過去の研究をなぞるだけでは不可。論文への評価としては、対象とするテクストについて、批評理論と研究史を踏まえて自分の意見を述べることができれば65%、テクストと文化の両方について意見を述べることができれば80%とし、先行研究との関係において自分を客観視できていれば90%、その成果が真に独創的なものであれば95%以上とする。
課題等	適宜指示する
事前事後学修	教科書について、全てを詳述することはできないので、卒論指導のタイミングに合わせて事前に2時間程度、事後に4時間程度の学修が要請されるところである。もちろん、これは卒業論文本体についての学修時間や執筆時間を含んでいない。
教材教科書参考書	ピーター・バリー　著／高橋一久　監訳　『文学理論講義　新しいスタンダード』（ミネルヴァ書房、2014）ISBN-13: 978-4623070435
留意点	担当者（井上）の「日本文化演習ＩA／B」を単位修得済みであることが望ましい。また、この科目と並行して「日本文化演習ⅡA／B」を履修すべきである。年度末の「卒論発表会」には、原則として全員参加を義務付ける。時間中の質疑応答だけではなく、ネット（Teams）を介しての双方向的なやり取りも積極的に行うので、受講者は適宜、Teamsに接続する必要がある。

科目名	卒業論文	科目ナンバリング	L-JSTH4-00.J	単位数時間	4単位	対象学年	4年	開講学期	通年
		科目コード	J41413		60時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	今村　かほる	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 学問の集大成として、卒業論文を書く。特に先行研究についてきちんと精査したうえで、論理的にそれを超えていけるようにする 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの9・10に関連し、カリキュラムポリシーの9・10に関連している。
到達目標	先行研究・仮説・調査に基づく学術的考察をし、学術論文として新知見を得る。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	論文を書くということ	学術論文の特徴について知る		第16回	資料整理	調査で得られた情報の整理	
第2回	論文の構成	論文の基本的構成とルール		第17回	資料整理	調査で得られた情報の整理	
第3回	先行研究の求め方	基本的な参考図書と文献検索の仕方を学ぶ		第18回	資料整理	調査で得られた情報の整理	
第4回	先行研究調査	参考図書と刊行図書の参考文献リストを作成し、所在確認をする		第19回	分析	データを算出・整理して分析する	
第5回	先行研究調査	論文資料リストを作成し、所在確認をする。Web上のアーカイブで入手する方法を知る。		第20回	分析	先行研究等との比較・考察	
第6回	仮説の求め方	仮設とは何かを知る。先行研究をまとめ、明らかになっていることを整理する		第21回	分析	先行研究等との比較・考察	
第7回	仮説の求め方	先行研究では明らかになっていないことをまとめ、研究の新規性を確認する		第22回	執筆	基本構成に従い、枠組みを決める	
第8回	調査計画	仮説の検証方法としての研究方法		第23回	執筆	仮説と結論の関係を確認する	
第9回	調査計画	調査計画を立てるための情報収集		第24回	執筆	全体構成の確認と補充	
第10回	調査計画	調査計画を立てるための情報収集		第25回	校正	提出前指導・校正	
第11回	調査準備	調査に必要な手順の確認と必要な機材・資料等を準備する		第26回	校正	提出前指導・校正	
第12回	調査準備	調査に必要な手順の確認と必要な機材・資料等を準備する		第27回	校正	提出前指導・校正	
第13回	調査準備	外部への連絡と、機器操作、印刷		第28回	発表準備	ゼミ内発表会	
第14回	調査実施	調査の実施		第29回	発表	ゼミ内発表会	
第15回	調査実施	調査の実施		第30回	総括	口頭試問とは何かを知り、準備する	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	特になし
評価方法及び評価基準	講義時のコメント20%・提出物20%・レポート60% 研究を計画的に進めることができ、学術研究の意義を持つ論文が書けているかについて評価する。
課題等	適宜指示する。
事前事後学修	事前事後学習（課題・調べ学習）を週3時間程度必要とする。
教材教科書参考書	プリント配付。
留意点	弘前大学図書館との共通利用証を準備すること。提出後、原則、卒業論文発表会で発表すること。

科目名	卒業論文	科目ナンバリング	L-JSTH4-00.J	単位数時間	4単位	対象学年	4年	開講学期	通年
		科目コード	J41415		60時間				

区分	専門教育科目	必修	担当者名	小橋　玲治	授業形態	演習	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 ブルーオーシャンを見つけ、そこで自ら問いを立て解明するということ自体は、むしろ大学以後に必要な社会人としてのスキルである。大学生活を通して身に着けた知識や技能を活用し、自分だけが書くことのできる「卒業論文」を目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの9・10に関連し、カリキュラムポリシーの9・10に関連している。
到達目標	先行研究を踏まえた上で、それを超克した卒業論文を完成させる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	各人の方向性の確認		第16回	長期休暇後の報告	夏季休暇中進行した部分の報告	
第2回	論文の構成	論文の構成とどこから執筆していくべきかを学ぶ		第17回	自説部分の執筆１	卒業論文完成に向けて執筆していく	
第3回	論文細則	注や参考文献の書き方など		第18回	自説部分の執筆２	卒業論文完成に向けて執筆していく	
第4回	執筆前の助走１	先行研究の収集等		第19回	自説部分の執筆３	卒業論文完成に向けて執筆していく	
第5回	執筆前の助走２	先行研究を読み、問題点を見つける。		第20回	自説部分の執筆４	卒業論文完成に向けて執筆していく	
第6回	執筆前の助走３	研究課題の方向性を絞る。		第21回	自説部分の執筆５	卒業論文完成に向けて執筆していく	
第7回	とりあえず書き始めてみる１	書きやすい箇所、特に先行研究のまとめ辺りから書き始めてみる。		第22回	自説部分の執筆６	卒業論文完成に向けて執筆していく	
第8回	とりあえず書き始めてみる２	書きやすい箇所、特に先行研究のまとめ辺りから書き始めてみる。		第23回	完成に向けて１	卒業論文完成に向けて執筆していく	
第9回	とりあえず書き始めてみる３	書きやすい箇所、特に先行研究のまとめ辺りから書き始めてみる。		第24回	完成に向けて２	卒業論文完成に向けて執筆していく	
第10回	とりあえず書き始めてみる４	書きやすい箇所、特に先行研究のまとめ辺りから書き始めてみる。		第25回	校正１	提出要項を満たしているかの確認	
第11回	とりあえず書き始めてみる５	書きやすい箇所、特に先行研究のまとめ辺りから書き始めてみる。		第26回	校正２	提出要項を満たしているかの確認	
第12回	とりあえず書き始めてみる６	書きやすい箇所、特に先行研究のまとめ辺りから書き始めてみる。		第27回	校正３	提出要項を満たしているかの確認	
第13回	中間報告１	現時点での報告		第28回	成果発表１	論文をレジュメ化し発表	
第14回	中間報告２	現時点での報告		第29回	成果発表２	論文をレジュメ化し発表	
第15回	中間報告３	現時点での報告		第30回	総括	口頭試問において想定しうる質問を洗い出しておく。	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	誘導ディスカッション	発表、ポスター作成						

評価方法及び評価基準	ディスカッション時の他学生への質問等、共に卒論完成を目指す仲間たちへの協力姿勢（20%） ゼミ内発表会でのレジュメの出来（20%） 論文そのものの完成度（60%）
課題等	適宜指示する。
事前事後学修	例えるならば卒業論文として表に出るのは氷山のうち海面に浮いている部分で、実際には大部分は沈んで目には見えない。そのため、当然ながら執筆時間とは別に週3時間以上の授業外学修が必要である。
教材教科書参考書	適宜指示する。
留意点	就職活動等は考慮するが、正当な理由なく６回以上欠席した場合や、進捗状況の確認が取れない場合には卒業論文単位の認定を認めない。また、提出後の卒業論文発表会の参加を義務とする。